

研究紀要目次

研究の概要	1
1 研究の全体構造	
研究の内容	7
1 地域素材を活かした体験活動	7
(1) 地域の環境の教材化	
(2) 地域素材活用の方法	
2 インターネットを活かした活動	13
(1) 交流の意義	
(2) 多様な交流相手	
(3) 交流・共同学習の基本的な流れ	
(4) 情報活用能力の育成	
(5) 情報モラルの指導	
(6) 校内体制の工夫	
3 子ども一人一人の変容を見とる評価活動	24
(1) いなさとタイムでの評価の考え方	
(2) いなさとタイムで目指す力と評価の観点	
(3) 指導と評価の一体化を目指す評価方法	
各学年の実践の記録	33
1 低学年の実践	33
2 中学年の実践	46
3 高学年の実践	56
4 低学年・中学年の授業記録(平成16年9月9日実施)	69
5 高学年の授業記録(平成16年9月22日実施)	83
成果と課題	92
参考文献一覧	93
資料編	95
稲里に住んで いろんなこと	
ひとりじゃないよ「ふたりっ子」	
パソコン狂時代	
還ってきてしまった再インストールクラブ	

研究の概要

1 研究の全体構造

研究主題

子ども一人一人の思いがつながり，広がり，深まる学習の創造
～表現力を高め，インターネットを活用して伝え合う学習～
第4次インターネット活用2か年計画 第1年次

(1) 主題設定の理由

本校を含むへき地・複式校には「社会経験の不足」「自己表現が不得手」「意見の練り合いが少ない」という共通の課題がある。本校では，それらの課題を克服する場をインターネット上に求め，コンピュータ・インターネットを活用した交流・共同学習を中心とした研究を進めてきた。

また，子どもに「生きる力」を身に付けさせ，地域に愛着をもって生きる子どもを育てるために，地域素材（人・自然・産業など）を活かした体験的な学習のあり方についても研究を進めてきた。

昨年度までの研究を通して，へき地・複式校の課題を克服する方法の1つとしてコンピュータ・インターネットを活用することの有効性は確認された。しかし，語彙の不足や表現力の弱さがコンピュータ・インターネットの活用だけでは解決できなかったことと，情報を整理する力が不足しているという新たな課題の2つが明らかになった。

そこで，今年度から2か年で取り組む研究では，これまでの地域素材を活かした体験的な学習とコンピュータ・インターネットを活用した交流・共同学習による探求的な学習活動のあり方について引き続き研究を重ねつつ，語彙を増やし，表現力を高め，集めた情報を整理して「伝え合うこと」を重視した学習活動のあり方を研究していくこととした。

そこで，研究主題を「子ども一人一人の思いがつながり，広がり，深まる学習の創造（表現力を高め，インターネットを活用して伝え合う学習）」とすることとした。

(2) 主題解説

「(思いが)つながり(つながる)」とは

...子ども一人一人が主体的に学習対象とかかわることにより収集・判断・処理
・創造した情報を的確に伝え合ったり，Webによって校外の相手と的確に伝え合ったりすること

「(思いが) 広がり (広がる)」とは

...学級内や, Mail で他校・他地域の友だちと伝え合ったりしたことにより, 新たな課題を見つけ, 取り組むこと

「(思いが) 深まる」とは

...学級内や, Mail で他校・他地域の友だちと伝え合ったりしたことにより, これまで取り組んできた課題をより詳しく探究すること

「表現力」とは

...自分の思いを相手に分かりやすく発信する力

「伝え合う」とは

...相手が発信した思いを的確に受信し, 新たな思いをもち, さらに発信する活動を繰り返すことを通して, 相手と共通の思いをもつこと

(3) 研究の方向 (本校の実践と求める子どもの姿)

本校は急速な過疎化が進む山間にあり, 全校児童 6 名の極小規模校である。

しかしながら地域全戸が P T A 会員であるため「地域の学校」という意識が高く, 子どもの教育に対する地域の期待は大きなものがある。そうした地域住民がもつ願いから, 本校では「地域のよさを体験・体感をもとに見つめられる子ども」「自分の思いを表現し伝え合える子ども」を求めて日々指導をしているところである。

そのために子どもたちに培いたい力としてコンピュータ・インターネット等を通じて,

- ・意識面では, 自分の住む地域への愛着, 他の地域や人とのかかわりをもつこと
- ・行動面では, 体験的な学習を通して様々な情報を集め, 判断・処理して, 自分の思いを的確に発信するだけでなく, 相手の思いを的確に受信できること
- ・学力面では, 相手を意識した表現力・発表力を高め, 思考を広げていくこと

が大切であると考えた。

(4) 目指す子ども像と研究仮説

目指す子ども像

- ア 地域のよさを体験・体感をもとに見つめられる子ども
- イ 自分の思いを表現し伝え合える子ども

研究仮説

仮説 1 ~ 総合的な学習の時間「いなさとタイム」や生活科において、身近な地域素材から子ども自らが課題を設定し、直接体験を重視した追究活動に取り組むことにより、地域のよさに気づき、愛着をもって地域とかがかわる力が育つだろう。

仮説 2 ~ 総合的な学習の時間「いなさとタイム」や各教科等において、課題を追究・解決する段階で、集めた情報を的確に判断・処理する過程を重視し、多様な場で相手を意識した発表・交流をさせることにより、自らの考えや思い、願いを伝えあう力が育つだろう。

(5) 研究内容

地域素材を活かした体験的な学習のあり方

インターネットなどを活用した交流・共同学習のあり方

総合的な学習の時間「いなさとタイム」のあり方

各教科・領域と関連付けた「いなさとタイム」の指導のあり方

子ども一人一人の変容を見とる評価のあり方

(6) 研究の方法

研究内容 について

本校の周囲にある豊かな自然や、校区で営まれている農業を中心とした産業を活用して、地域のよさを子どもたち自身が見付けることができるよう、地域素材を教材化する。さらに「自然」、「産業」、「人」のカテゴリーに分け、「いなさとタイム」や各教科で取り扱う。今年度は開校 100 周年であるので、学校（地域）の 100 年の歴史を振り返られるような内容を取り扱う。

取り扱い方としては、教材化された地域素材に対して、五感を最大限に活用して直接、何度もかかわる体験的な活動を重視する。

研究内容 について

インターネットの Web と Mail , BBS を活用して他校・他地域の子どもや大人との交流・共同学習を積極的に行い、学習意欲を高めたり、課題を明確にしたりするとともに、発信を通して個性の伸長、コミュニケーション能力の育成、地域のよさへの気づきを図ることができるよう研究を進める。

また、町内イントラネットの活用と充実、本校の研究の成果を還元するという 2 つの観点から、他地域だけではなく町内の各小学校との交流・共同学習も進めていく。可能であれば直接会って学習する機会も設けたい。

研究内容 について

総合的な学習の時間「いなさとタイム」において、地域のよさを発見したり、自

分の考えや思いなどを表現したりできるよう，人や自然，物事と直接かかわる活動を中心に，「地域」，「情報」の2つの柱で研究を進める。昨年度作成した支援の系統の検証と改善によって，子どもの願いや思いを反映させつつ「いなさとタイム」の目標を達成させていく。

なお低学年については，各教科・領域の中で，横断的・総合的にとらえた学習活動を進め，総合的な学習の時間につながる芽を育てることにより，3年生以上の学習が充実するようにしていく。これについては，2・3年生の学習のようすを分析して，効果を検証する。

研究内容 について

他教科等との内容の関連をさらに重視した学習活動を進め，各教科・領域での学習が「いなさとタイム」で総合化されるようにする。

また，各教科や「いなさとタイム」の中で，様々な情報の中から必要な情報を探し出し（判断），それらを整理（処理）して新たな情報をつくり出す（創造）学習を積極的に進める。

教科であれば例えば国語の作文や社会の調べ学習，「いなさとタイム」であれば例えば自分の撮った写真を目的に応じて整理したり Web を作成したりする活動がそれに当たる。本校の子どもは，情報の収集についてはかなりの力を身に付けているので，集めた情報をもとに考えたり，新たな情報をつくり出したりする活動を何度も積み重ねることにより，集めた情報を判断・処理・創造する「情報活用の実践力」が身に付くと考える。

研究内容 について

子ども一人一人の実態をとらえ，活動による変容を的確に見とることができるよう，自己評価・相互評価と教師の見とりを統合した「評価フォルダ」を作成してきたが，より簡便な方法を研究していく。

なお子どもが作成したデータは，できる限りデジタル化した上で，ファイル名を統一して蓄積しておく。昨年度，詳細な分析方法をいくつか研究したが，「評価フォルダ」と同様，簡便な分析方法について研究する。

（6）研究の検証方法

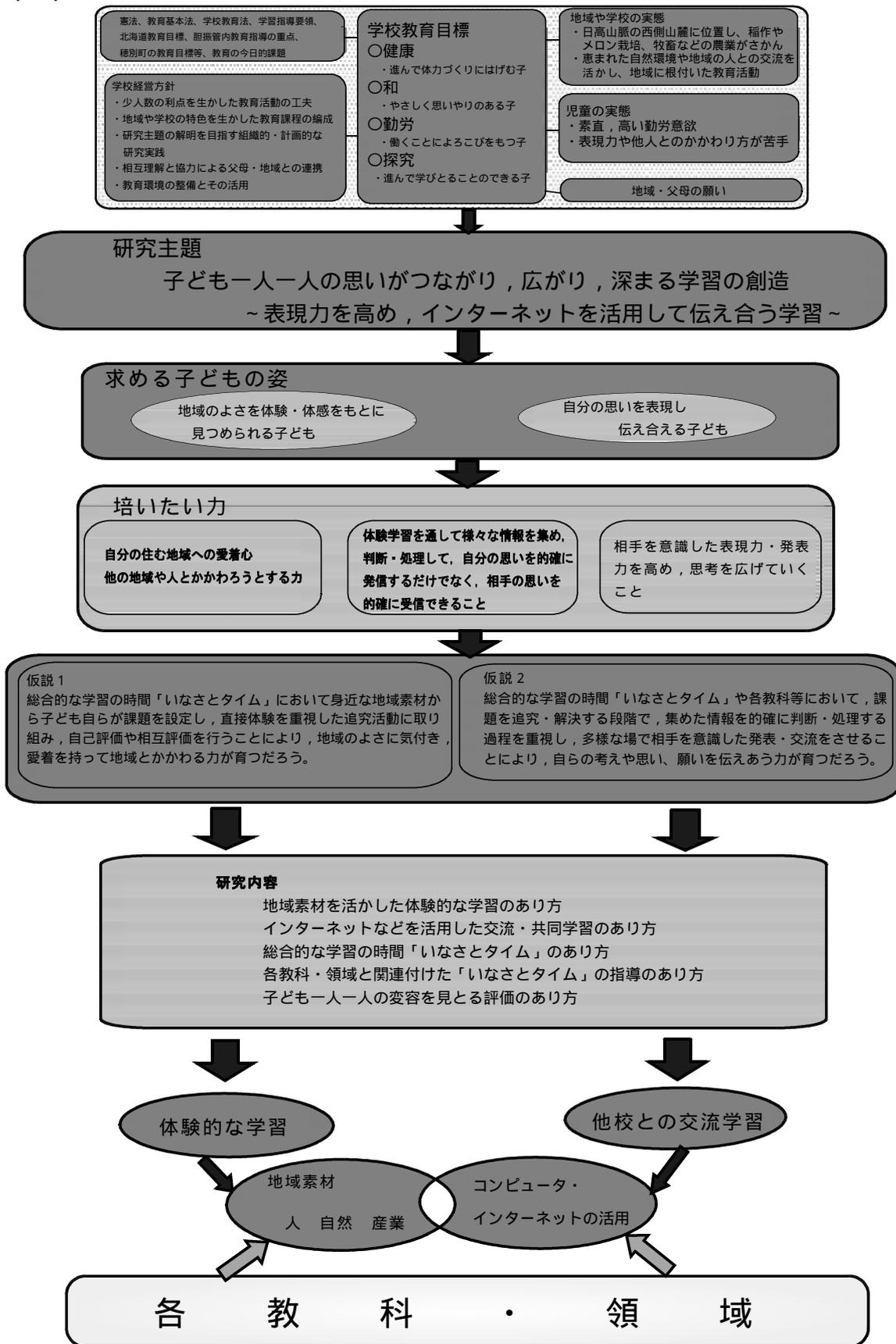
- ・自己評価・相互評価と教師の見とり評価を合わせた「評価フォルダ」とポートフォリオを作成する。それらをもとに子ども一人一人の変容を見とり，指導と評価の一体化に役立てていくとともに，子どもの変容に他校・他地域の子どもや大人との交流・共同学習がどのような影響を与えているか検証する。
- ・本校・相手の双方でアンケートを実施し，「相互に」伝わっているかどうかを検証する。
- ・一人一人のよさを積極的にとらえるため，日々の変容を記録化し，その一部をインターネット上でも公開していく。
- ・知識・技能はもとより，思考力・判断力を高めるために子どもによる自己評価，

相互評価を行い，自他のよさを見いだし活動を肯定的に評価できるようにする。そのために自己を正しく見つめ，他との違いを認める力を育てていかなければならない。また，その結果を教師が適切に分析し，子どもの変容とインターネット活用との関連性を考慮した評価を行っていく。

(7) 年次研究計画

<p>1 年次 平成 16 年度</p>	<p>地域素材を活用した体験的な活動を実施する。 Web，Mail，BBS を活用した交流・共同学習を实践する。 各教科・領域と総合的な学習の時間「いなさとタイム」や生活科の学習をさらに関連付けた学習活動を実践する。 評価フォルダ，デジタルポートフォリオを活用した指導と評価の一体化を实践する。 アンケート等により交信のようすを検証する。 公開研究発表会を実施する。</p>
<p>2 年次 平成 17 年度</p>	<p>地域素材を活用した体験的な活動を実施し，その成果をもとに Web，Mail，BBS を活用した交流・共同学習を实践する。 各教科・領域と「いなさとタイム」・生活科の効果的な関連付けを研究し検証する。 より簡便なデジタルポートフォリオの作成・活用法を研究する。 アンケート等により交信のようすを検証する。 公開研究発表会を実施する。</p>

(8) 「いなさとタイム」の全体構造図



研究の内容

1 地域素材を活かした体験的な活動

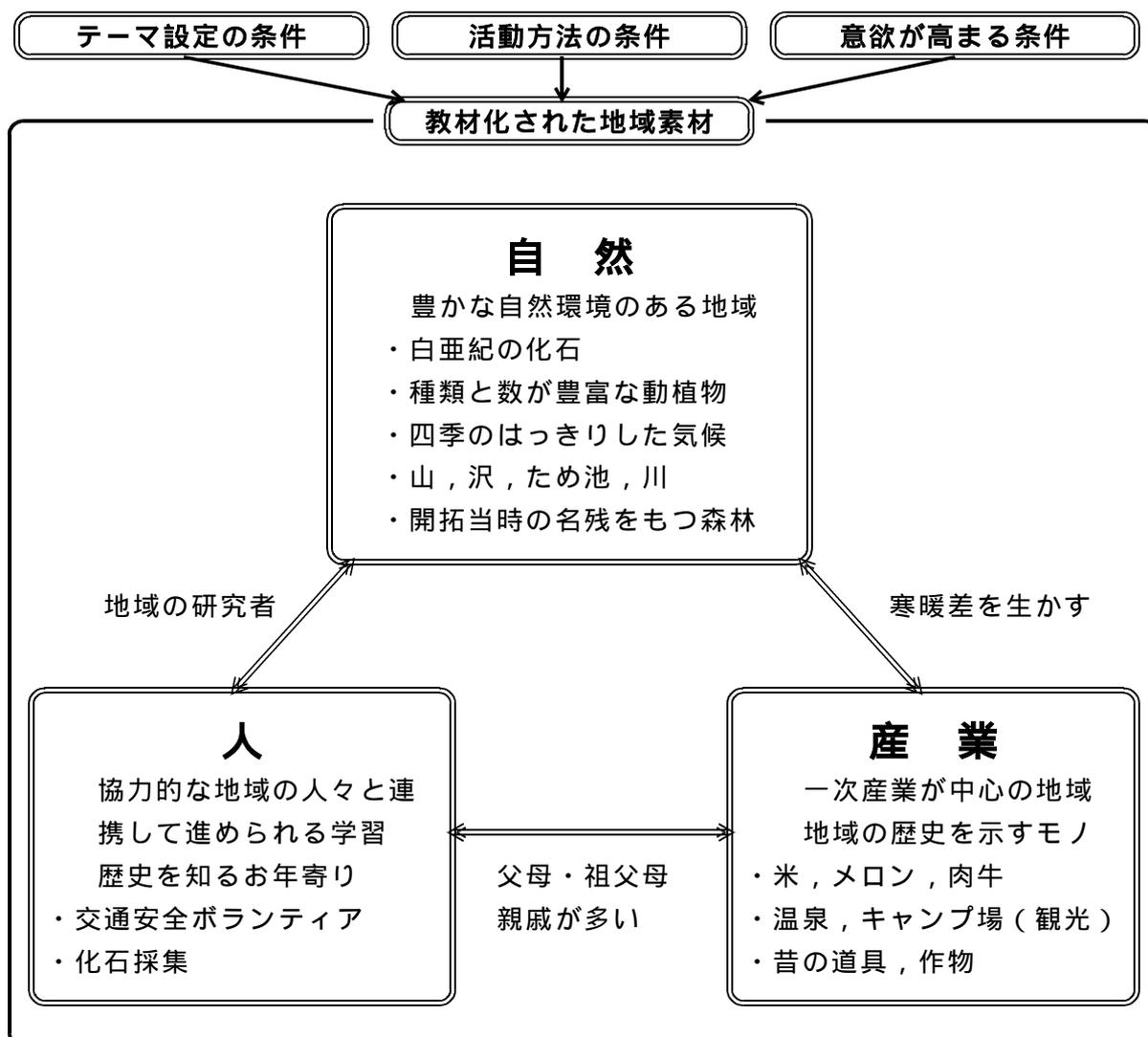
(1) 地域の環境の教材化

地域の環境を教材化するにあたって

本校の総合的な学習の時間「いなさとタイム」や生活科では、地域素材に直接かわる中で地域のよさを見つめ、伝え合うことを主眼においている。

地域の環境を教材化するにあたっては、対象を「自然」「人」「産業」と大きく3つのカテゴリーに分けてとらえながら、相互の関連についても意識して教材化している。どのカテゴリーから地域素材を選んでも、他の2つのカテゴリーと関連づけることにより、子どもの視野を広げることができる。

さらに、今年度は「歴史」という視点から地域素材を再検討した。地域で作られていた作物や、昔の道具といった地域素材を教材化し、体験的な学習に取り組んでいる。



体験的な活動の内容と教師のかかわり

ア 地域素材を活かす

本校における体験的な活動は、子どもが継続的・主体的にかかわる本格的な活動である。

子どもは、継続的・体験的な活動をもとに、自ら観察・調査をしてその結果を記録してまとめ、研究・考察を行い、また新たな課題解決へ進むという自発的な問題解決的学習を進めている。体験の中で課題を見付け、地域素材に直接ふれながら観察・調査を進めたり、調べたことから再び活動へと向かう。教師は、デジタルポートフォリオをもとに支援をしたり、適切な地域素材に出あわせ、



農園に作物を植え、継続的に観察する

かかわりをもたせたりする。このように地域素材を活かした体験的な活動を繰り返すことで、学習に深まりをもたせることができる。また、教師が、1つの地域素材に関連する他の地域素材や価値ある他の体験的な活動へ子どもをかかわらせることにより、子どもの課題解決の視点に広がりをもたせることができる。このように、子どもの日常生活と密着している地域の素材を教材化し、教師が適切に働きかけることにより、一連の生活体験の中で生きる学習を進め、知識と生活が結び付いた学習とすることができると考えている。

イ 五感を活かした体験的な活動

子どもが様々な体験的な活動を進めていくときに、決められたことを行っていくだけでは、たとえ五感を活かした活動であっても子どもの気付きは期待できない。子どもが地域素材に正面から向き合い、自分なりの課題や目的意識をもって失敗を恐れず、試行錯誤しながら時間をかけてかかわっていくことによって、いろいろな事象に気付くことができる。

つまり、課題意識をもって学習対象に能動的にかかわっていくことによって、情感のある感覚や多様な感受性を身に付け、自分の課題を解決していくことができるのである。

今年度、低学年では昔の作物の栽培を通して、昔の食べ物を調べている。毎日のように見に行かせて、作物の育ちぐあいを目で確かめたり、いろいろなところに触って似ている



いなきびと雑草の違いを触って調べる

雑草との違いに気付いたり、収穫した作物を似ている他の作物と比較しながら味わったりしている。このように、五感を活かした活動で情報を収集し、処理・創造する活動を軸に学習全体を構成することに努めている。

学習の基本的な流れ

課題設定 = 子ども自らが課題を発見し、学習を見通した計画づくりをさせることが大切であるが、価値ある課題に取り組ませるには発達段階に応じた適切な支援が必要となる。

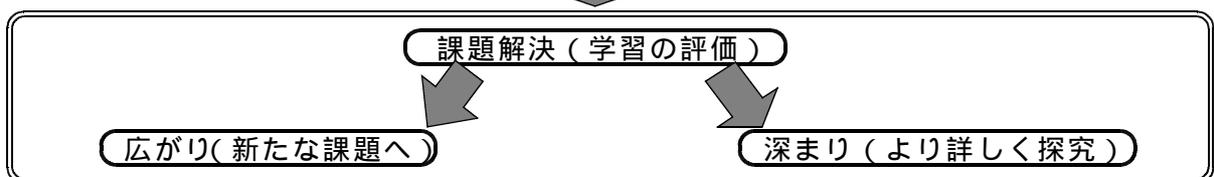
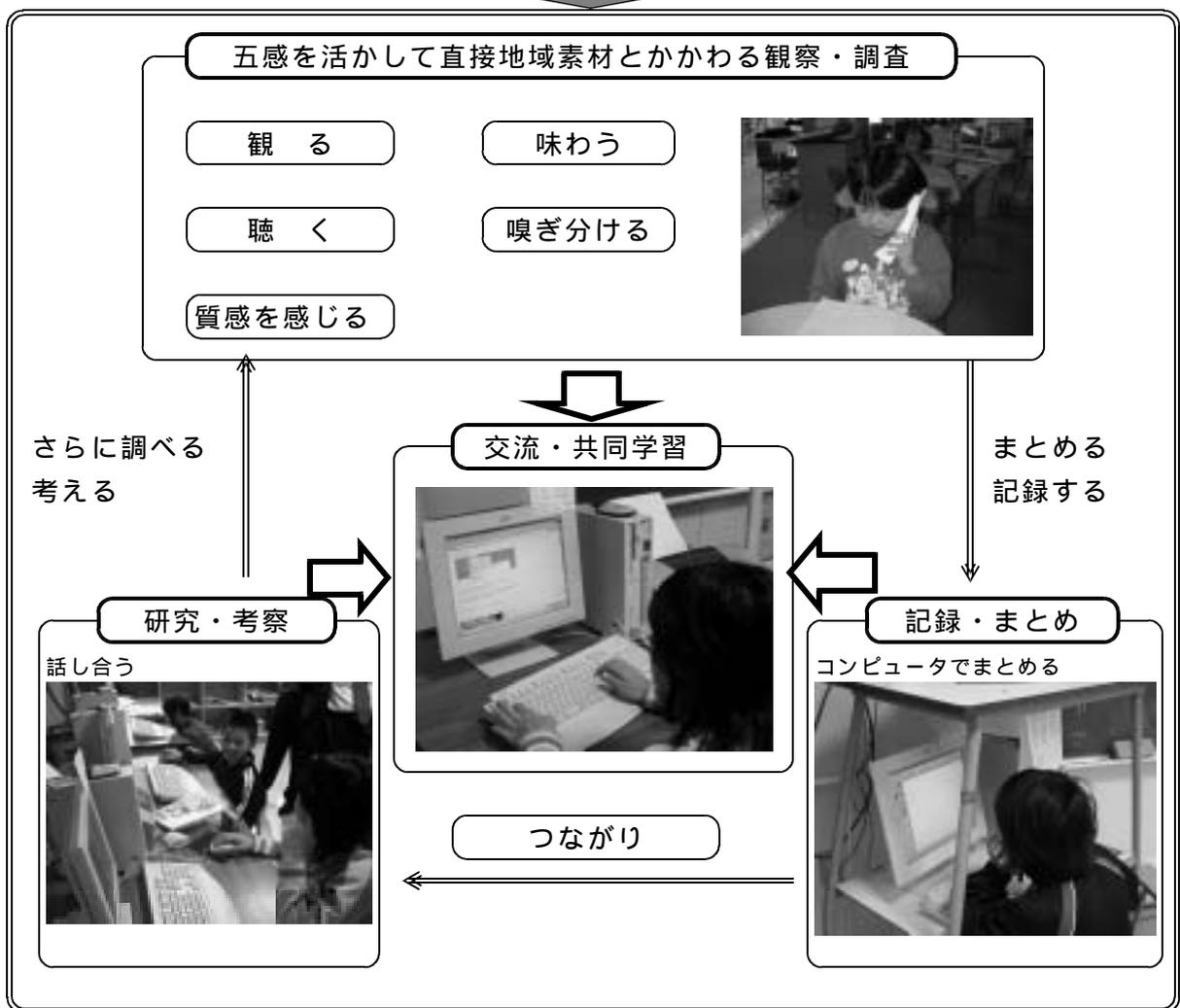
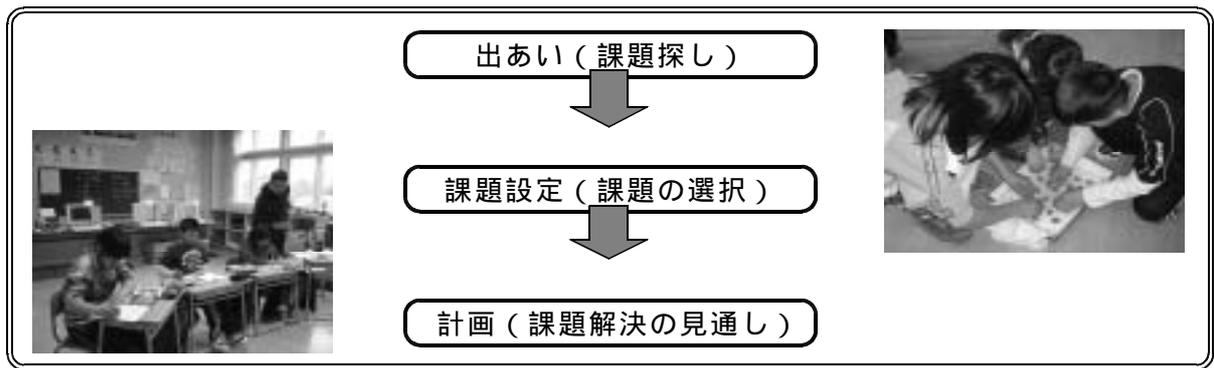
出あい・・・疑問や感動などから、課題となりそうな対象を意識する。
課題設定・・・何を追究するのか、価値ある課題は何か考える。
計画・・・見つけた課題を解決する方法を考える。
これまでの学習経験や生活経験をもとに予想(見通し)を立てる。

探究・解決 = 五感を活かした体験・体感活動を展開し、課題解決に取り組む。

観察・調査・・・五感を活かした観察・調査などの課題にふさわしい方法を用いて追究する。
記録・まとめ・・・調べたり、追究したりした情報を取捨選択しながら分かりやすくまとめる。
研究・考察・・・観察・調査し、まとめたものから自分なりの考えや結論を導き出す。

発展・応用 = これまでの学習にどのように取り組んできたのか自己評価する中で、次の活動の方向を決めていく。

課題解決・・・予想と比べて解決した事実を整理する。
自分の活動を振り返り、解決方法や結果が満足いくものであったかどうか自己評価する。
広がり・・・学習の成果から、新たな課題を見つけて活動する。
深まり・・・課題に引き続き取り組み、新たな計画を立て、より詳しく探究・解決活動に取り組む。



(2) 地域素材活用の方 法

自発的な取組をうながす工夫

子どもが自分の思いや願いをもち、課題の解決や実現に向けて見通しをもった体験ができる環境をつくっていくことは、教師にとって大変重要な支援の一つである。さらに教師は、地域素材を教材化するとき、普段の生活や遊びの中で、子どもがどのようなことを知っているのか、どのようなことに興味をもっているのかを把握しておく必要がある。

また、年間を見通した学習計画を立てるとき、地域にはどのような学習活動や体験学習の場があるのか、その実態を把握することで、実情に合った計画を立てて指導をしていくことができる。

以上の点から、本校では、地域での子どもの学習素材となりうる可能性のあるものの全体像をとらえた上で、季節にかかわっては「いなさとカレンダー」、場所にかかわっては「いなさとマップ」としてまとめ、日常の学習に活用できるようにしている。

いなさとカレンダー

学習計画を立てる上で学習素材として役立つようなものを、学校・地域・自然の3つについて1年間という時間的な要素でとらえたものが「いなさとカレンダー」である。季節ごとに、学校や地域で何が行われているか、どのような動植物が見られるかをカレンダーの形式で表している。

この「いなさとカレンダー」を見ることによって、地域でいつ・どのような営みが行われているか、いつ・どのような動植物が見られるかがわかるので、課題をたてたり観察・調査をしたりするときには参考になる。また、地域の自然や産業は四季の変化と密接にかかわっているので、活動の見通しをもたせることもできる。

さらに学校行事も合わせて掲載することで、このカレンダーが子どもにとってわかりやすく、なじみやすいものとなるだけでなく、地域の自然や産業、産業を営む人々に対する関心が高まることを期待している。



いなさとマップ

子どもの家、学校、地域の主な施設と特徴的な環境を簡単な絵地図の上に表したものが「いなさとマップ」である。このマップは各教室にも掲示し、地域の様子を文字だけでなくイラストと合わせて表すことによって、1年生でも、わかりやすく、具体的に地域のイメージをとらえ、関心をさらに高めることができるように工夫した。また、観察・調査の際には地図としても使用できる。ただし意図的に大まかに制作し、子どもの学習活動によって追加されることを想定している。

子どもにとってこの「いなさとマップ」は、自分たちのまわりにあるものを再確認しながら、課題づくりや観察・調査の活動の手助けになったりしている。

さらに、この「いなさとマップ」が教室に掲示してあるという点を活かし、自分たちが新たに発見したものや気付いたものを追加させている。これは、子どもの発見を反映させることによって、マップそのものの充実だけでなく、「自分たちのいなさとマップ」という意識の高まりを期待している。これについては先述の「いなさとカレンダー」も同様で、子どもの1年の活動の成果の中から季節に関係する要素が含まれているものを加えて、毎年、新しいカレンダーを制作している。

また、学校周辺の「いなさとマップ」も別に作成している。

子どもが最も頻繁に体験的な学習を進めている場所は、やはり学校の周辺である。校地内の農園や広場はもとより、学校の裏に広がる学校林、前庭とその奥にある教員住宅街、学校の隣にある神社とその近くの沢や灌漑用のため池と周辺の林がそれにあたる。学校周辺のこれらの場所は、体験的な学習の場だけでなく、理科や社会など各教科の学習においても活用されているので、マップを活用する機会が広がり、「いなさとタイム」との相乗効果も期待できる。範囲が狭いために余白が多く、児童による追加の書き込みがしやすいという二次的な効果もある。



2 インターネットを活かした活動

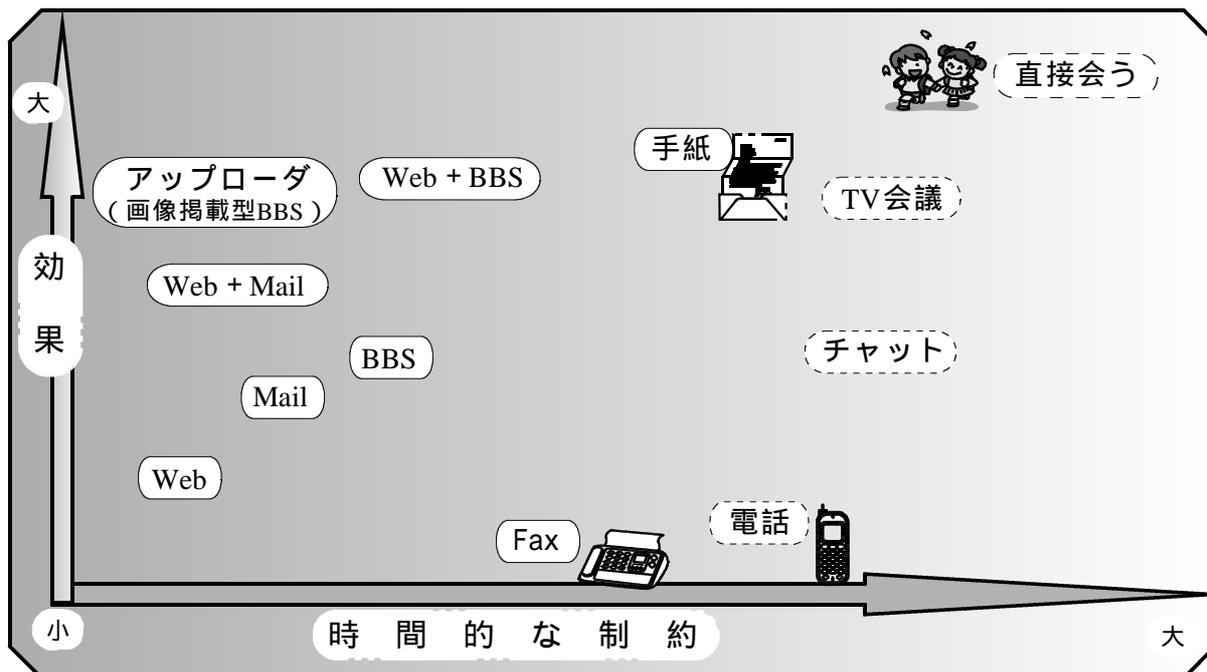
(1) 交流の意義

インターネット活用の必要性

へき地・小規模校の子ども特有の課題を克服するためには、多くの人とかかわりをもたせることが重要である。そこで、校内での取組を工夫とともに、学習の場を学校外に拡大して、同年代の子どもや大人と共同して学習活動を進めていくための場を数多く設けていくことにした。

本校では、テーマをそろえて他校の子どもと並行して学習活動に取り組むことを「共同学習」、テーマを決めて取組のようすをやりとりすることを「交流」と定義している。

交流・共同学習は、直接会うことに限らず、Webを見合ったり、MailやBBS・手紙などでの話し合いをしたりするなど、多様な形態で行っている。時間と場所をそろえて一緒に学習活動を進めることが最も効果的であるが、時間的な制約がたいへん大きく、なかなか実施できない。そこで、Web、Mail（電子メール）、BBS（電子掲示板）といったインターネットの技術を活用して間接的に学習の場を拡大することによって、場所と時間の制約が少ない状態で、話し合い・学び合いによる思考の深まり・広がりや自己表現力の伸長、社会体験の補充を目指している。



交流・共同学習の目的

本校では、他校・他地域の子どもの大人と出会い・かかわることによる個性の伸長、情報の交信によるコミュニケーション能力の育成、他地域の違いを認識することを通して地域のよさに気付かせること、の3つを大きな目標として交流・共同学習に取り組んでいる。

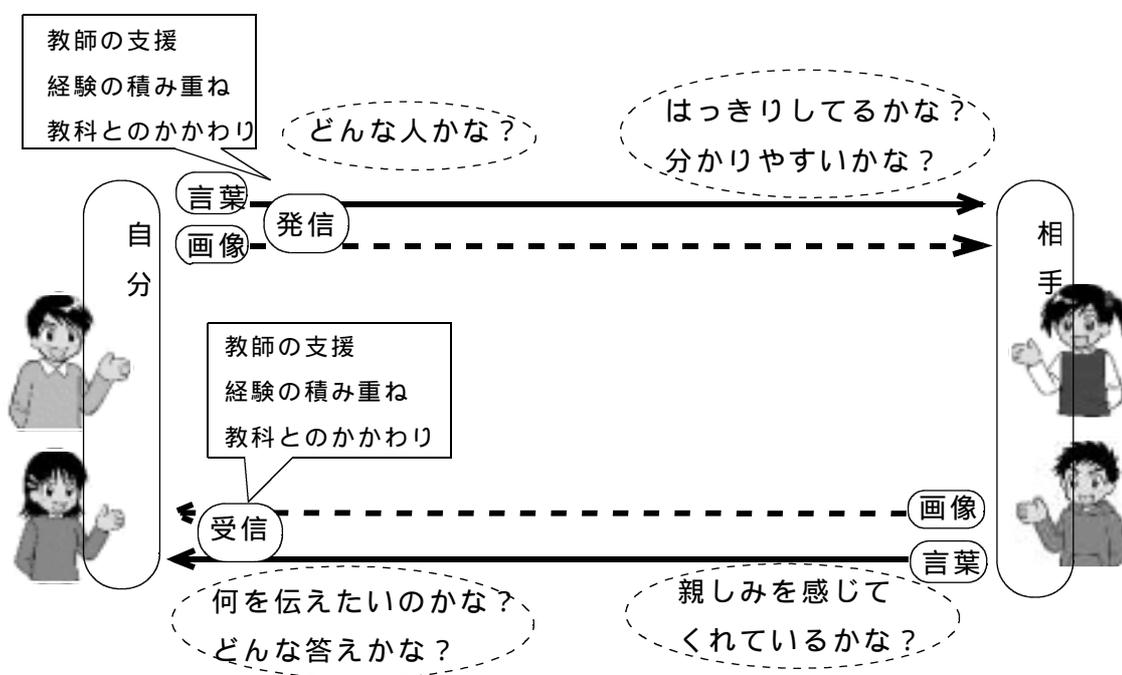
ア 個性の伸長

個性とは、自分と他の人とを区別できるような固有の特性と本校ではとらえている。自分で気付くことのできる個性もあるが、他の人との違いを認識することではじめて気付くことのできる個性も多い。気付いた個性を伸ばすことについても同様である。気付いた個性を自分の努力だけで伸ばしていくこともできるが、周りから認められたり、ほめられたり、助言されたりすることによって個性をさらに伸ばしていくことができる。他の人とのかわりによって新しく見つけた自分の個性は、自分の新しい価値として認識されるだろう。

できる限り多くの子ども・大人とふれあい、交流し、共同学習を通して関係を深めていくことで、子どもそれぞれの個性を見付けて伸ばし、自分の価値に気付かせていくことができると考えている。

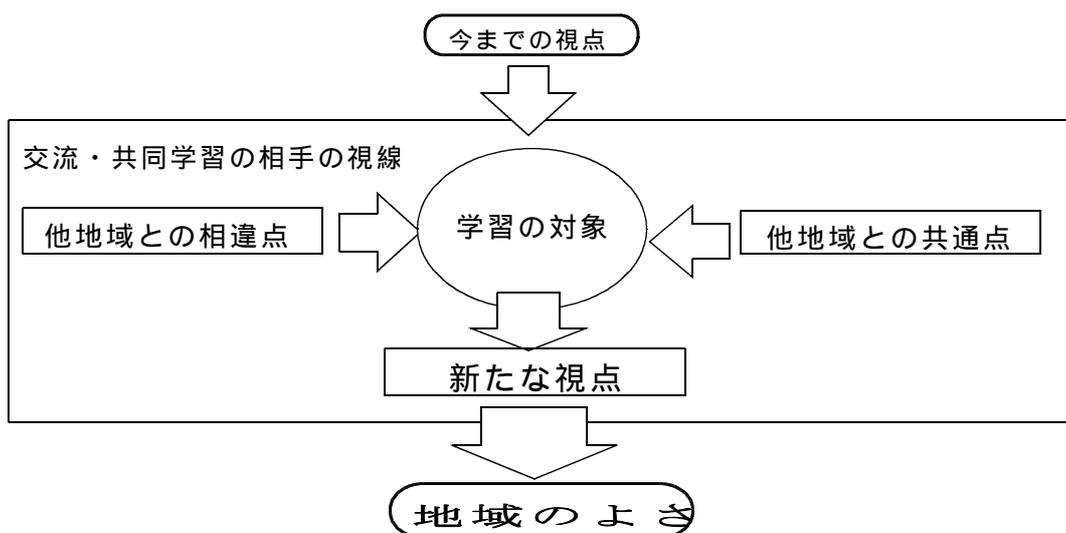
イ コミュニケーション能力の育成

Web, Mail, BBS を活用した交流・共同学習では、コミュニケーションの手段としては文章が中心となる。さらに Web はもちろん、BBS ではアップロード、Mail では添付ファイルという形式で画像をやりとりすることは可能である。画像については、本校では、自分たちの活動のようすや農園で育てている作物のようすといった、文章ではなかなか伝えきれないものをよりわかりやすくするための補助的な役割として使用している。これは、自分の思いを表現する力、相手の文章を読んで相手の思いを理解する力、相手を意識して伝え合う力といったコミュニケーション能力の育成を重視しているからである。



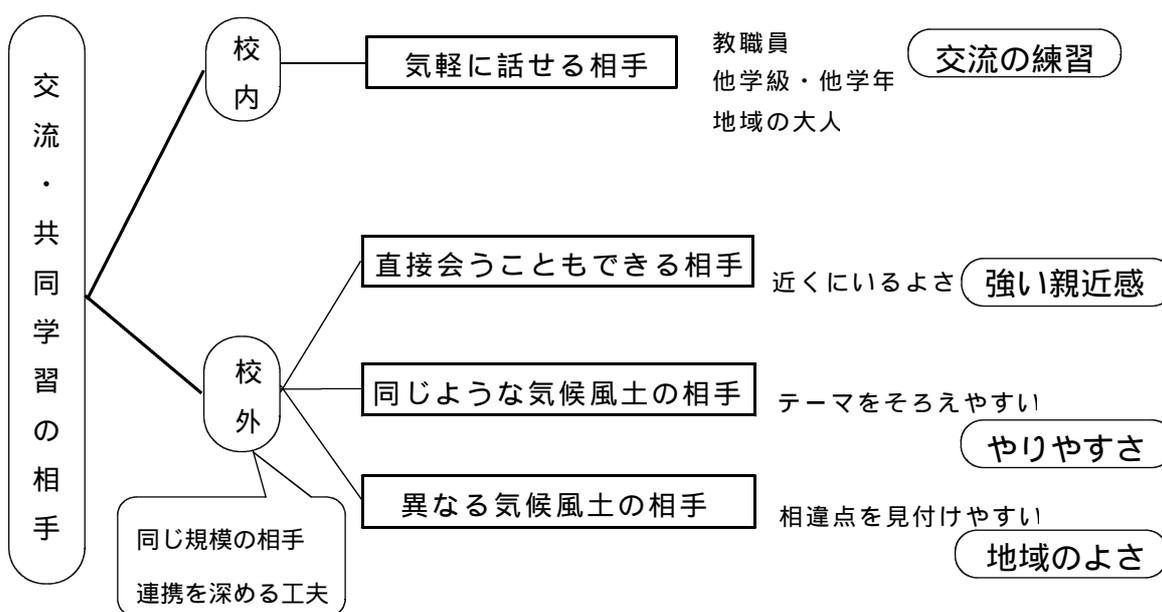
ウ 地域の自然・人・産業のよさに気付かせる

「いなさとタイム」では、子どもは「当然のようにある」自然・人・産業について五感を活かしてかかわりながら調べ、わかったことや感じたこと、考えたことを発信している。ここに他校・他地域との交流・共同学習という要素を加えることによって、子どもたちの視点を広げ、地域に対する新たな視点を得ることができる。自分たちにとって「当たり前」の自然・人・産業が、他の地域にはなかったり、大切に保護されていたりすることを知り、それを通して地域のよさに気付かせることができると考えている。

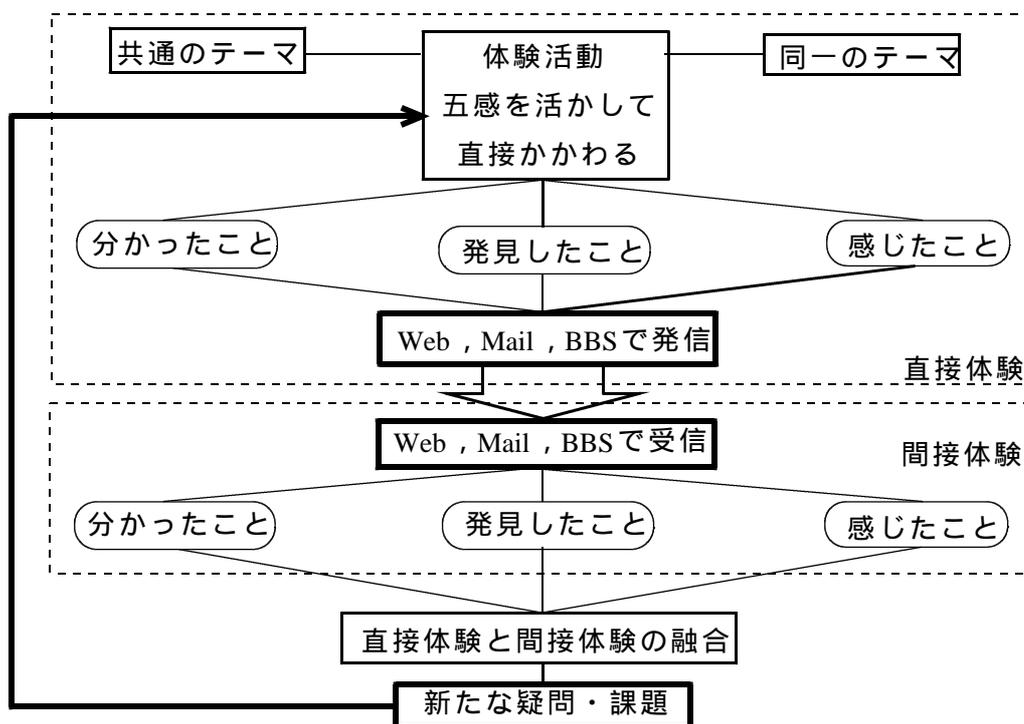


(2) 多様な交流相手

交流・共同学習の相手にはいくつかの種類があり、本校では学習のテーマに合わせてその相手を選択しているが、交流・共同学習の相手の種類は、大きく4つある。



(3) 交流・共同学習の基本的な流れ

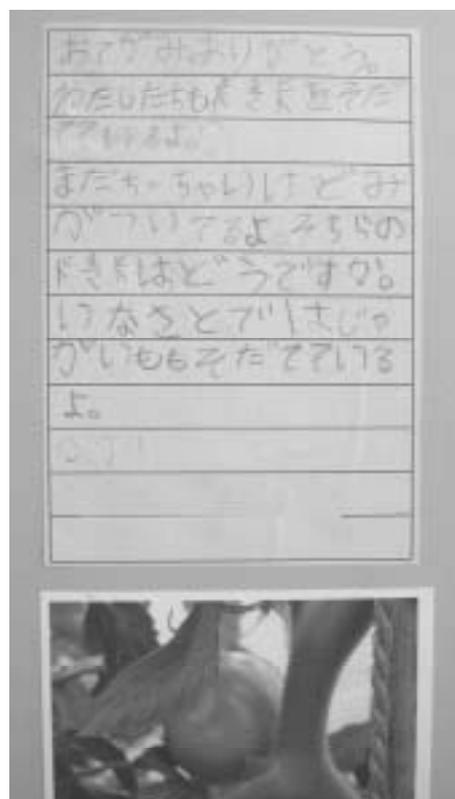


本校の交流・共同学習は、体験的な活動からはじまる。地域素材に直接・五感を活かしてかかわるなかで、わかったことや考えたこと、感じたことなどを発信することが、交流・共同学習の第一歩である。

自分たちのわかったことや考えたこと、感じたことに対して、交流・共同学習の相手から返事が来ると、その内容を読みとる。ここで、自分たちが取り組んできた体験的な学習（直接体験）と、交流・共同学習の相手が学習したこと（間接体験）が一体のものとなる。そして、発信によって新たに出てきた疑問や課題を解決するために、再び観察・調査といった体験的な活動に取り組む。体験によって得られたことをまとめ・記録し、研究・考察を行った後、再び発信する。

これが本校の考える交流・共同学習の基本的な流れである。場合によっては体験的な活動を挟むことなく話し合いをすることもあるが、その話し合いの背景には体験的な活動の積み重ねがあることは言うまでもない。

低学年などでは手紙で交流することもあるが、交流の流れに違いはない。



(4) 情報活用能力の育成

文部科学省から平成14年6月に出された『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引き」』(以下『新「情報教育に関する手引き」』)によれば、小学校・中学校の段階における情報教育は「生きる力」の重要な要素であること、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の三要素からなる「情報活用能力」をバランス良く、総合的に育成することが目標とされている。またこの三要素については、「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」で以下のようにまとめられている。

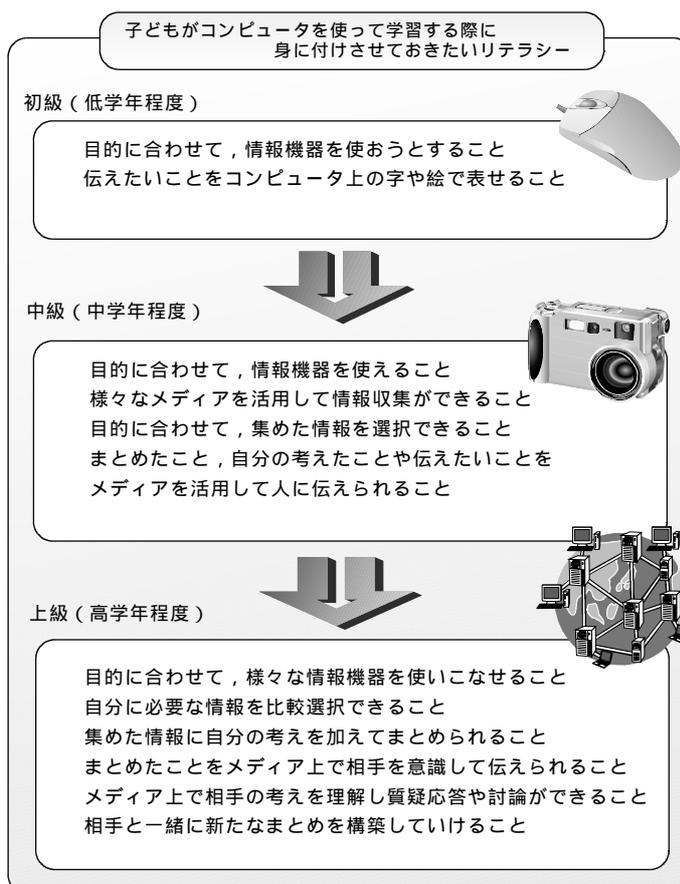
「**情報活用の実践力**」...課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などをふまえて発信・伝達できること

「**情報の科学的な理解**」...情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

「**情報社会に参画する態度**」...社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

本校で取り組んでいる情報教育は、交流・共同学習を行う手段としての情報活用能力の育成である。その際に必要となる力は、必要に応じて画像を用いながら、わかったことや考えたこと、感じたことを自ら文章によって情報を掲載したり、情報交換や話し合いを進めたりすることである。

情報機器を用いて話し合い活動を行うことで、地域のよさに気付かせ、子どもの個性や表現力を伸ばすことを目指している。情報活用能力は、話し合い活動を進めるために必要な技能の1つととらえ、育成している。主として「情報活用の実践力」の育成に重きを置きながら、情報を適切に扱ったり自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な方法(「情報の科学的な理解」)や情報モラル(「情報社会に参画する態度」)について必要に応じて指導し育成することとしている。



(5) 情報モラルの指導

小学校段階で必要な情報モラルとは

『新「情報教育に関する手引き」』では、情報モラルは「情報社会に参画する態度」の一部とされている。

「情報社会に参画する態度」

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解させる

- ・情報化の進展による利便性・効率化・生産性の向上を認識させる
- ・情報化の進展に伴い生じてきた問題をどのように捉えどう対処すべきかという心構えをもたせる

情報モラルの必要性や情報に対する責任について考えさせる

- ・情報の送り手と受け手として適正な活動をするために必要なルールやマナーについて考えさせる
- ・情報を扱うときに生じる責任について考えさせる

望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度をもたせる

初等中等教育の段階では、情報社会の進展によってもたらされた良い面と悪い面をバランスよく理解させ、適切な情報モラルを身に付け、情報社会をよりよいものにしていこうという態度をもたせることが求められている。

インターネットに限定すると「ネチケット」という用語もあるが、これはインターネットを活用したコミュニケーションについてのルールであり、情報モラルの一部である。また、インターネットに関する情報モラルについてまとめたものとしては、財団法人インターネット協会（IAJapan）が作成した『インターネットを利用するためのルールとマナー集』が詳しい。その『こどもばん』では、「自分の身は自分で守る」「相手のことを思いやる」の2点を柱とし、してはいけないこと・気を付けることを詳細に紹介している。

情報モラルについては中学校の技術・家庭科、高等学校の情報の学習指導要領に盛り込まれていて、『新「情報教育に関する手引き」』でも、小学校段階では取り立てて指導する必要はないことになっている。しかし、小学生も日常的にインターネットを活用するようになっている現在では、情報機器に慣れ親しむ中で、インターネットを活用する際の情報モラルについても体験的に学ぶことが必要だと本校では考えている。

小学校段階におけるインターネット活用に必要な情報モラルは、

- ア 情報を収集・判断・創造する際に気を付けること
- イ Mail や BBS でコミュニケーションをする際に気を付けること

の2点にあると本校ではおさえている。

教師側のおさえ

本校では、小学生に必要な情報モラルとして、以下のものを考えている。

- ア 情報を収集・判断・創造する際に気を付けること
 - (ア) 著作権・知的所有権を守る
 - (イ) 自他の個人情報を守る
 - (ウ) 正しい言葉遣いと技術を用いて適切な Web を作成する
 - (エ) 発信した情報に責任をもつ
 - (オ) 収集した情報を鵜呑みにせず、よく考え（判断）する
 - (カ) 学校では学習目的以外にインターネットを使用しない
- イ Mail や BBS でコミュニケーションをする際に気を付けること
 - (ア) 差別・誹謗中傷をしない
 - (イ) 個人情報を発信しない・要求しない
 - (ウ) 相手に応じた言葉遣いをする
 - (エ) 返事が遅くても（なくても）怒らない
 - (オ) Mail・BBS の書き方・使い方を守る
 - (カ) 何か困ったことがあったら大人に相談する
 - (キ) 知らない相手からの Mail は開かない

本校で行っているインターネットを活用した教育活動には、Google 等の検索エンジンを利用した情報収集，Web やアップローダ（画像付き BBS）を利用した学習の経過や結果の発表，そして Web と Mail または BBS・アップローダを利用した交流・共同学習がある。上にあげた情報モラルは、いずれも本校の教育活動と密接に関わっているので、体験を通して情報モラルについて学習させることができると考えている。逆に言うと、子どもたちにこれらの情報モラルを身に付けさせなければ、インターネットを適切に利用して学習させることはできない。

『新「情報教育に関する手引き」』には、指導のあり方について以下の4点が明記されている。

モラルや責任について教えこむだけではなく、その妥当性と必要性を一人一人が納得し、自分のものとしてとらえられるようにする。
情報化の光と影の両面を偏りなくとりあげ、情報社会を過度に楽観的または悲観的にとらえることのないようにする
学習の初期段階では影の部分を極力排して活用場面を設定し、徐々に子どもたちの自主性に委ねていく過程で影の影響やそれへの対処法を明示的に指導する。
情報の真偽に関わることや、著作権やプライバシーの問題などについては、具体的場面が発生したときには、それを見過ごすことなく、繰り返し触れる。

以上の点に留意しながら、日常のインターネット活用や校内研修を通して、教職員が共通理解をもって指導にあたるようにしている。

子どもへの指導の実際

本校で、子どもに情報モラルを指導する際に重視するのは、次の3つである。

- ・ Web・Mail・BBS は人間同士のやりとりであることを認識させる
- ・ 校内の友だちと同様に交流・共同学習の相手と接するようにさせる
- ・ 何かあったときには機を逃さずに指導する

Web・Mail・BBS では、お互いに PC を通したやりとりのため、相手が人間であることをつい忘れてしまうおそれがある。本校ではそれを防ぎ、相手を意識させるために、交流相手のことは「 小の くん・ちゃん」「 の さん」と呼ぶようにしたり、交流・共同学習の相手と写真をやりとりして掲示したり、こちらの特産物であるメロンを送ったり（たいていの場合、相手も現地の特産物も送ってくださる）している。これらの手段は、特に低学年において交流への意欲を持続させる手法として有効であるが、交流・共同学習の相手が他校・他地域の子どもや大人であることを、繰り返し再確認させるためにも有効である。交流・共同学習の相手は自分と同じ人間であることをしっかりと認識させることが、情報モラルの根幹にあると本校では考えている。

交流・共同学習の相手が人間であることを子どもに意識付けしておくことにより、実際のやりとりのあり方を考えさせることができる。その際に、子どもに考えさせる指針としているのが、ふだんの学校生活における人間関係である。

本校の子どもたちは、新たな人間関係を構築することを苦手とする子どもはいるものの、人間関係を良好に保っていくための基本的な術は身に付けている。いじめなどの問題行動は全くと言ってよいほどないことがその証である。周りの人と良好な人間関係を保つために必要な事柄の多くは、情報モラルと関連づけて考えさせることができる。例えば、人の悪口を言わないということは、人間関係を維持するためには重要なことの1つであるが、これは本校が想定する情報モラルの「イ（ア）差別・誹謗中傷をしない」ことにつながる。同じく、人のものを勝手に使ったりしてはいけないことも重要なことの1つであるが、これは「ア（ア）著作権・知的所有権を守る」ことにつながる。

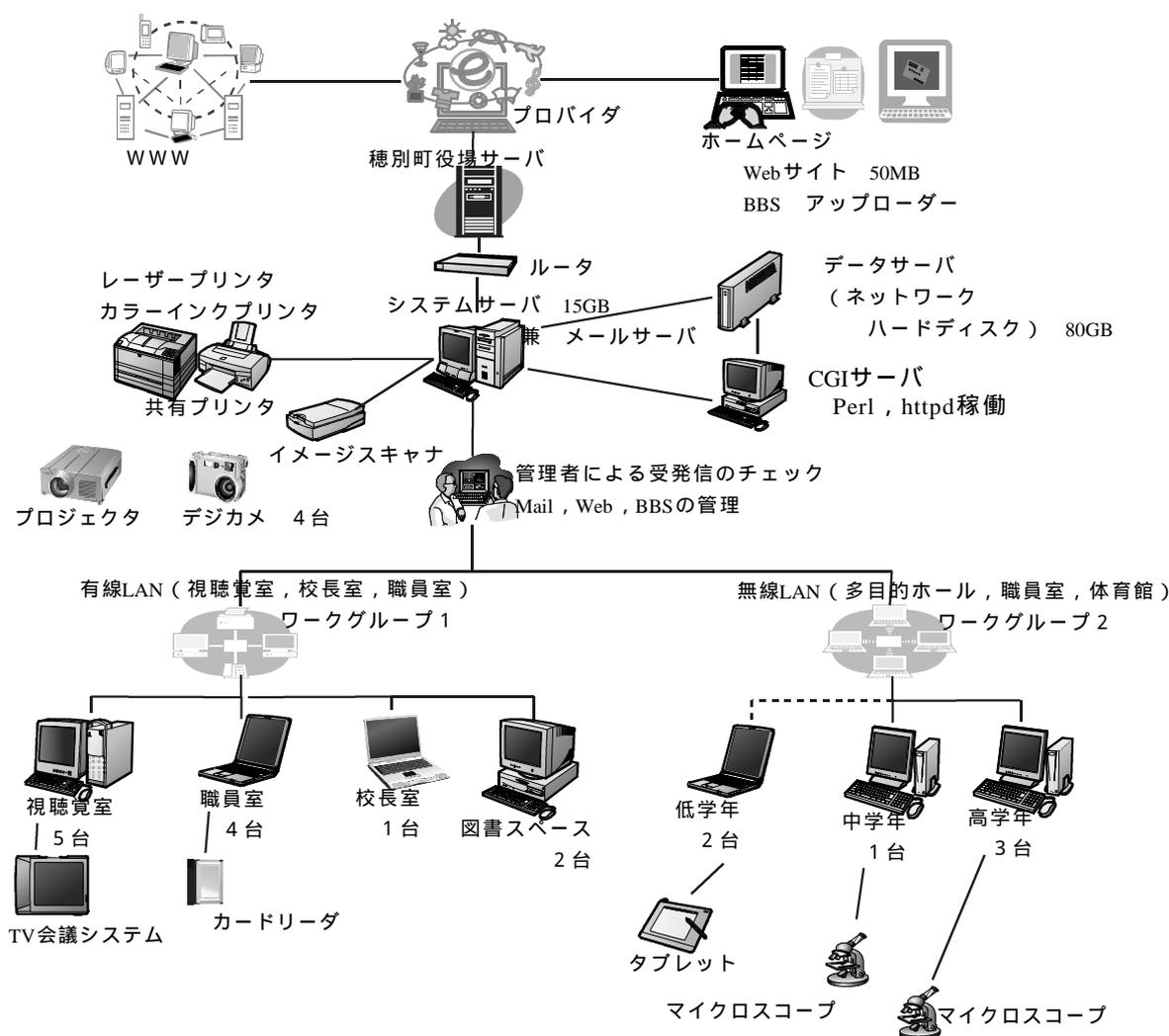
このように、学級・学年・学校としてよりよい人間関係をもつために教師が子どもに対して指導することの多くは、情報モラルの育成とも関連づけて指導することが可能である。そして本校では、日常の人間関係がよりよいものとなるよう指導を重ねることを通して、交流・共同学習の相手とも情報モラルを守ってよりよい人間関係を築いていけるよう指導しているのである。

校内での人間関係の延長として情報モラルの多くを育成している本校では、Web・Mail・BBS を初めて使うときに、それらの使用方法として情報モラルについても考えさせて指導したりする他は、情報モラルについて意図的に時間を設けて指導することはない。ただし、情報モラルに反することがあった場合は、その場で指導をするようにしている。その場合も、「こういうことをしたら相手はどう思うかな？」というように、常に相手が人間であることを再認識させながら指導している。

(6) 校内体制の工夫

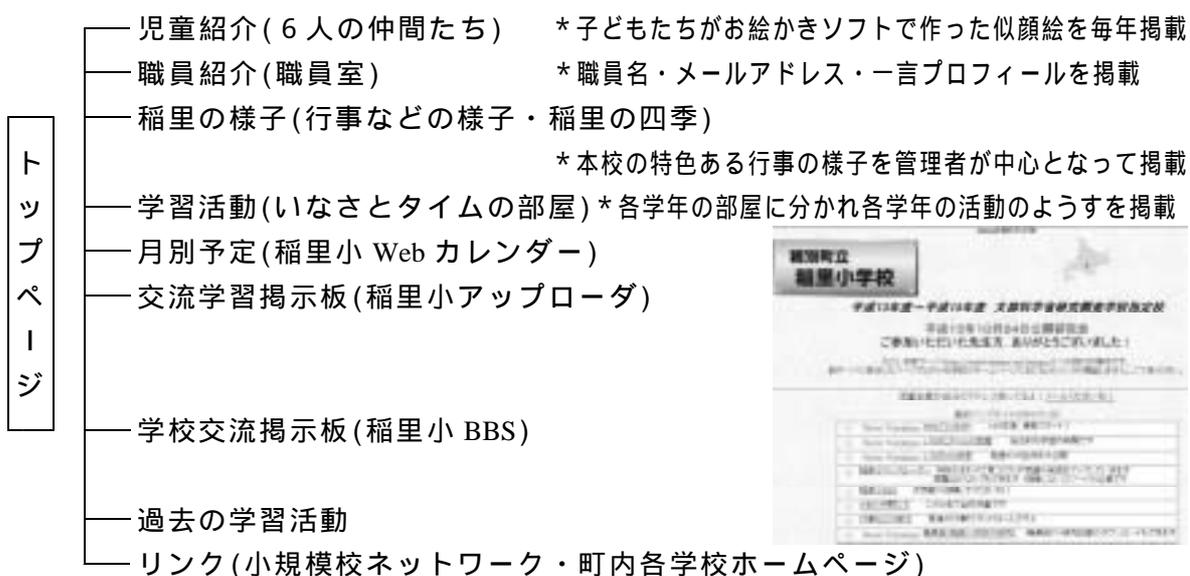
校内ネットワークの構造と分掌上のセキュリティ対策

本校は、平成8年度よりホームページを立ち上げ、子どもたちの学習のようすや本校の特色ある活動について発信し続けており、現在までの閲覧者は5万人を超えている。インターネットを学校で利用しようとするとき、単純にコンピュータがインターネットにアクセスできる状態であればよいというわけではない。これまでの学習教材や教具と違いダイレクトで外の世界とのやりとりができるわけであるから、子どもたちが危険にさらされたり、逆に様々な方面に迷惑をかけたりすることも考えられる。そこで、本校では、教育活動としてインターネットを有効に活用するために、コンピュータやネットワークの構造理解、維持管理や整備、教員の技能の向上などについて校内体制作りに取り組んでいる。



本校では、上の図にあるように、ネットワークを介した校外との情報の送受信は全て管理されている。Web, Mail は校務分掌上に管理者が位置付けられていて、管理者によって一元的に管理されている。BBS についても各学級担任のチェックを経て発信され、不適切な発言の削除を含む BBS の運営は Web Master が行っている。このような管理体制の確立により、情報の送受信に関するセキュリティを保護している。

稲里小学校ホームページの構造



個人情報の保護

インターネットを情報収集の道具としてだけでなく、本校のように発信したり、交流したりすることを目的とした場合、「個人情報の保護」は重要な問題である。穂別町では、各学校の情報担当者が集まり、インターネット活用のガイドラインを作成した。本校では、これにそって校内での規定を定めている。学校の Web を作成したり、Mail 等で交流・共同学習をする場合は、本校のガイドラインの範囲内で行っている。もし止むを得ずこの範囲を逸脱する必要がある場合は、事前に本人と保護者へ説明し、文書で承諾を得るようにしている。

また、サーバやバックアップ等に保存されている個人情報が漏洩することのないように、PC やデータの持ち出しに関しては穂別町のガイドラインを厳守するとともに、情報漏洩を行うコンピュータウイルス等に感染しないよう、ウイルス対策ソフトや OS のアップデートには PC を使用する教職員全員が万全を期している。

教員研修

学習環境の整備では、教員の研修が大きな柱となる。指導者が正しい理解をしていないと有効に活用できないからである。本校では、管理者がネットワーク設定の仕方、新しいソフトの活用方法、Web、BBS の使い方などを新しく転任してきた教員にもわかるような資料を提示している。また、ウイルスなどのセキュリティ情報やソフトのバージョンアップ情報なども随時、職員朝会などで周知し徹底するようにしている。

その他にも、日常的な活用における教え合いや意見交流が重要な役割を果たしている。特に Web については、その作成方法だけでなく、有効性や連続性などを理解するため、各担当者が更新するたびに簡単な意見交流をしている。

4 子ども一人一人の変容を見とる評価活動

(1) いなさとタイムでの評価の考え方

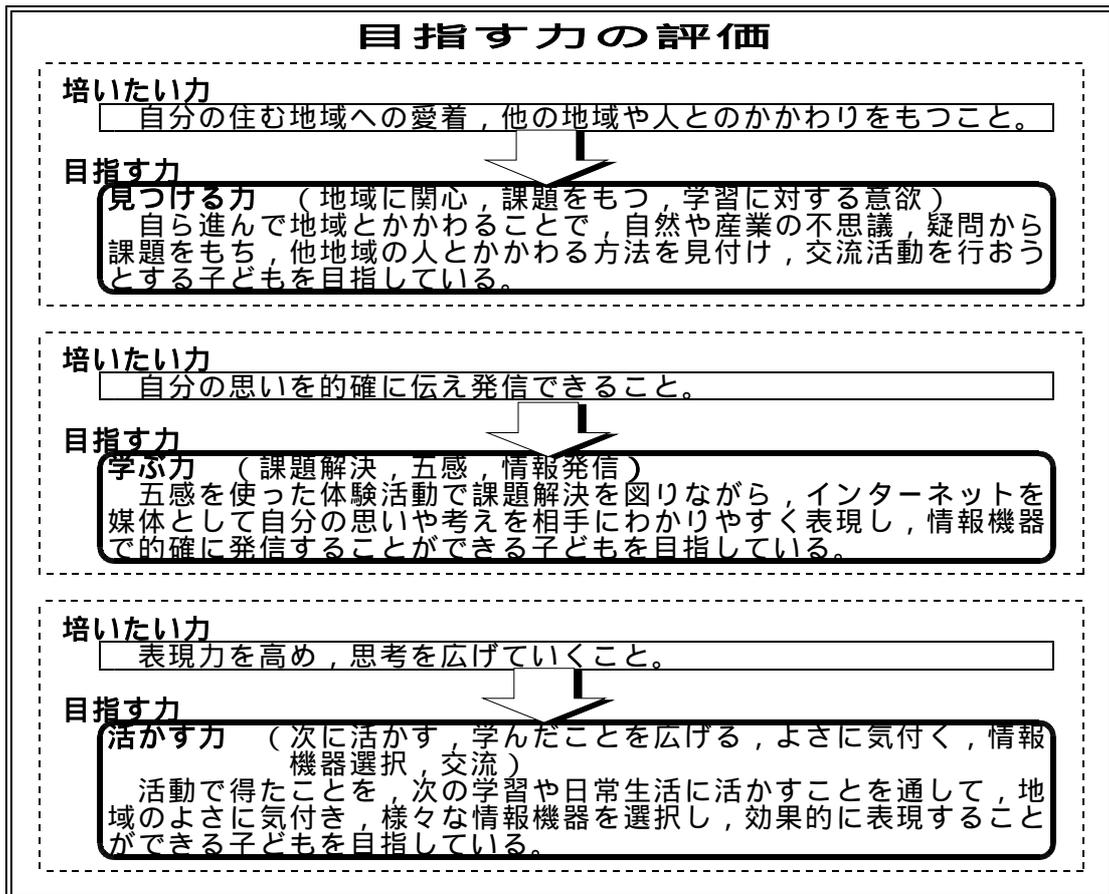
総合的な学習の時間の評価については学習指導要領において「数値的に評価することとはせず、活動や学習の過程、報告や作品、発表や討論にみられる学習の状況や成果などについて、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などをふまえて適切に評価すること」とされている。

地域とかかわる力や自分の思いや願いを伝え合う力を育てることをねらいとした本校の「いなさとタイム」においても、結果を評価するだけでなく、学習を進めていく中で、意欲や関心が高まる評価を進めていきたい。

極小規模の本校においては、教師が子ども一人一人を見とり、詳細な評価をもとに適時、適切な支援につなげることも可能である。また、学習者自身が自分をよく見つめる自己評価や互いのよさを認め合う相互評価なども活用しながら、一人一人の変容を見とり、次の活動が高まるような評価としたい。

(2) いなさとタイムで目指す力と評価の観点

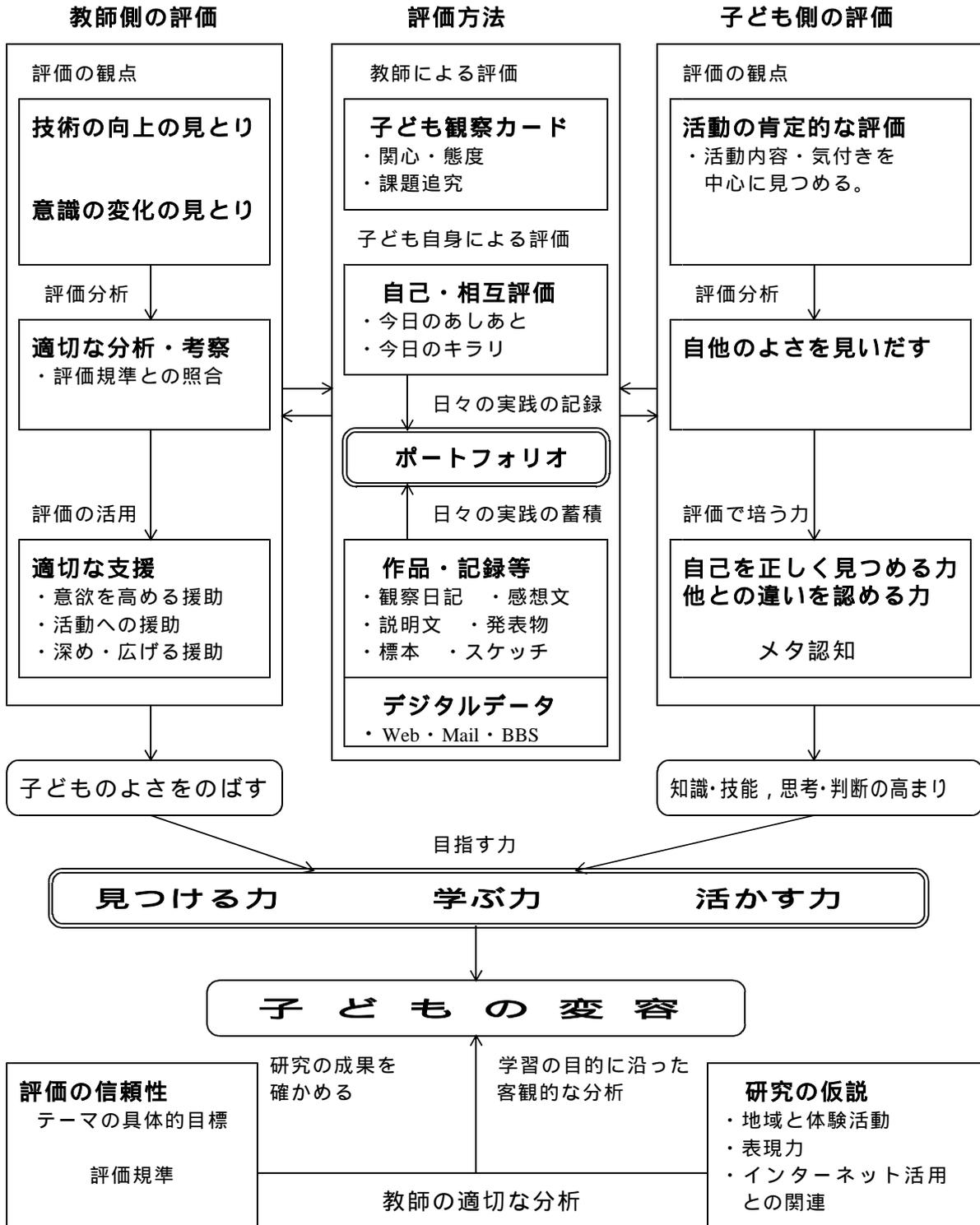
上記の方針をふまえ、学習過程に合わせた子ども一人一人の変容を見とるために、培いたい3つの力を子どもたちが日常的に意識しやすいように「目指す力」として明らかにし、そこから評価の内容を具体的にとらえた。



(3) 指導と評価の一体化を目指す評価方法

子どもの変容を見とる評価方法

評価方法には、教師の見とりによるもの、学習者である子どもによるものがある。いずれも評価の観点をしっかりともち、それをもとにどんな評価をするのか、どんな場面で活用するのか明らかにすることで、評価の目的をはっきりさせておきたい。また評価の信頼性や普遍性なども考慮しておきたい。



生活科・いなさとタイム学習過程別評価一覧

生活科の評価規準との関連は()で示している。

(関心) : 生活への関心・意欲・態度

(思考) : 活動や体験についての思考・表現

(気付き) : 身近な環境や自分についての気付き

		低 学 年	中 学 年	高 学 年
課 題	見 つ け る 力	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことに興味や関心をもち、かかわろうとする。(関心) まわりの人とかかわりをもとうとする。(関心) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会や自然と触れ合い、興味や関心に応じた活動を見付けようとする。 学校以外の人とかかわる方法を見付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や産業に目を向け、自分に合った課題を見付けようとする。 自分の課題に合った交流相手を見付けようとする。
	設 定 力	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものごとにふれながら、やってみたいことを見付けることができる。(思考) いろいろな人の話を聞きながら、自分のやってみたいことを考えることができる。(思考) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどんなことを調べていくのか考え、課題をつくることができる。 友だちや先生の意見や助言を活かして、課題をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿い、自分を高めるための課題をつくることができる。 インターネット等の情報を活用して、課題をつくることができる。
活 か す 力	活 か す 力	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題がわかり、自分なりの活動の手順がわかる。(思考) 自分のやってみたいことを楽しく絵や文章に表し、人に伝えたいと思う。(思考) 	<ul style="list-style-type: none"> どのような学習を進めていくのか、大まかな見通しをもつ。 学習に役立つ情報機器があることを知り、その活用場面を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して予測を立て、どのような活動に取り組むか見通しをもつ。 学習計画から場面に応じて情報機器の活用を想定する。
	見 つ け る 力	<ul style="list-style-type: none"> わくわく、ドキドキなど興味をもって、活動を楽しもうとする。(関心) 学習を進めていく上で物や人などいろいろな方法で情報を探そうとする。(関心) 	<ul style="list-style-type: none"> 興味や関心をもって、いきいきと活動しようとする。 必要な情報を見付け、学習を進めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> やりたいことと取り組むべきことを区別して活動しようとする。 インターネットなどの電子資料を使って整理しながら情報を活用しようとする。
解 決	学 ぶ 力	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものに対して、全身で感じながら遊んだり、かかわったりすることができる。(思考) 	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使って、調べたり、観察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点をしっかりもって、調査、観察活動に取り組むことができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことや驚いたことを絵や文章に表すことができる。(思考) 	<p>様々な情報機器を使って表現することができる。</p>	<p>課題に対して、様々な情報機器を活用して発信することができる。</p>
探究 ・活 か す 力	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の活動を振り返り、うまくいったことやそうでなかったことを思い起こし次の活動に活かす。(気付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って学習を進めながらも、よい意見や考えを取り入れながら次の活動を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設的なアイデアや意見をどんどん取り入れて、今後の活動の計画をたてる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちから聞いた情報を取り入れ活動に活かす。(気付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を進めていく中で、友だちの意見を考えながら交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を整理し、友だちの意見を考察しながら交流学习を進める。
見 つ け る 展 力	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめた活動からふだんの生活や、自分と人や社会、自然とのかかわりを考えようとする。(気付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した課題がふだんの生活と何らかの関連を見付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した課題が、日々の生活や自分たちの地域とかかわる点を見付けようとする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのやりとりから、他の人の工夫やよさをわかろうとする。(気付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報手段を使って交流するよさを知り続けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを通して交流学习するよさを理解し継続しようとする。
学 ぶ 用 力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習でわかったことや、気付いたことをまとめることができる。(思考) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、自分の考えを入れながらまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、地域のよさを考えながらまとめることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い、考え、楽しかったことを絵や文で表し、友だちに伝えることができる。(思考) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分なりの方法で表現し、インターネットなどで伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理した情報を自分の考えに合わせて処理し、発信することができる。
活 か す 力	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、わかったことからもっと学習したいと考える。(関心) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを振り返りながら、学校や家庭での生活について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことから日々の稲里でのくらしとのつながりを考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの発表を聞き、稲里のことを知る。(気付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校とのやりとりを振り返りながら稲里の特色を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学习を振り返り、他地域との違いを知る。

教師の見とりと評価フォルダの工夫

ふだんの授業の中で作成した評価を活用していくためのデータとして、子どものようすがわかる「教師の評価フォルダ」を作成している。そこに次のようなデータを常に蓄積していき、デジタルデータを処理するソフトを活用して、並べ替えできるようにした評価一覧表をデジタルポートフォリオの1つとして評価していくこととした。

評価フォルダの記入方法

テーマ
大単元名・小単元名どちらでもよい。

目標
興味・関心，地域・情報などねらいをはっきりさせた目標を立てる。

学習内容
本時の課題を記入する。

記号の評価内容
・ = 見とり評価
= 診断・分析
= 子どもの学習状況から考えられる支援

いなさとタイム 評価フォルダ

児童名 6年 S男
 テーマ いなさとの水，土，空
 見付けた鳥の名前を調べる方法を考えよう

日時	学習内容	学習状況		子どもの評価	
		見つける力A	学ぶ力A	積極性 B	満足度 A
7/1	鳥の名前を知るにはどうすればいいか考え、実際に野鳥観察に行き実践する。	活かす力 *** ・観察した鳥を素早く図鑑で調べた。動作にも注目し何をしているのか考えた。図鑑の調べ方を熟知。多様な要素から種を同定。いろいろな同定方法を試してもらいたい。		積極性 B 羽の色，動き方，大きさからコゲラだとわかった。 違う調べ方を考えた ・木の中の虫を食べてるんじゃないかなあ。	満足度 A

学習状況
* 教師の子どもに対する評価を記入する。
* 目指す力を評価基準を設けて A, B, C の3段階で評価する。

見つける力	A 野鳥に関心を持ち名前を調べる方法を考えようとする。 B 野鳥に関心を持ち、その特徴を観察しようとする。 C 野鳥を見付けようとする。
学ぶ力	A 自分で考えた方法で野鳥を観察し名前を調べることができる。 B 注意深く観察し、特徴を捉えることができる。 C 野鳥を観察することができる。
活かす力	本時においては活かす力を目標と設定しない。 ・学習内容によっては評価規準が3つがそろわない場合もある。

記号の評価内容
= わかったこと
= もっと調べたいこと
・ = 子どものつばやき

子どもの評価
* 子どもの自己評価・相互評価の内容から、注目すべき言葉(キーワード)を記入する。
* 興味・関心(積極性・満足度)を子どもが3段階で自己評価したもの。

積極性	A 自分なりの方法で何種類も調べることができた B 自分なりの方法で野鳥の名前が調べられた。 C 自分で調べることはできなかった。
満足度	A 課題に沿って活動でき、おもしろかった。 B 課題に沿って活動できた。 C 課題にむけて活動できなかった。

自己評価・相互評価の工夫

ア 自己評価のねらい

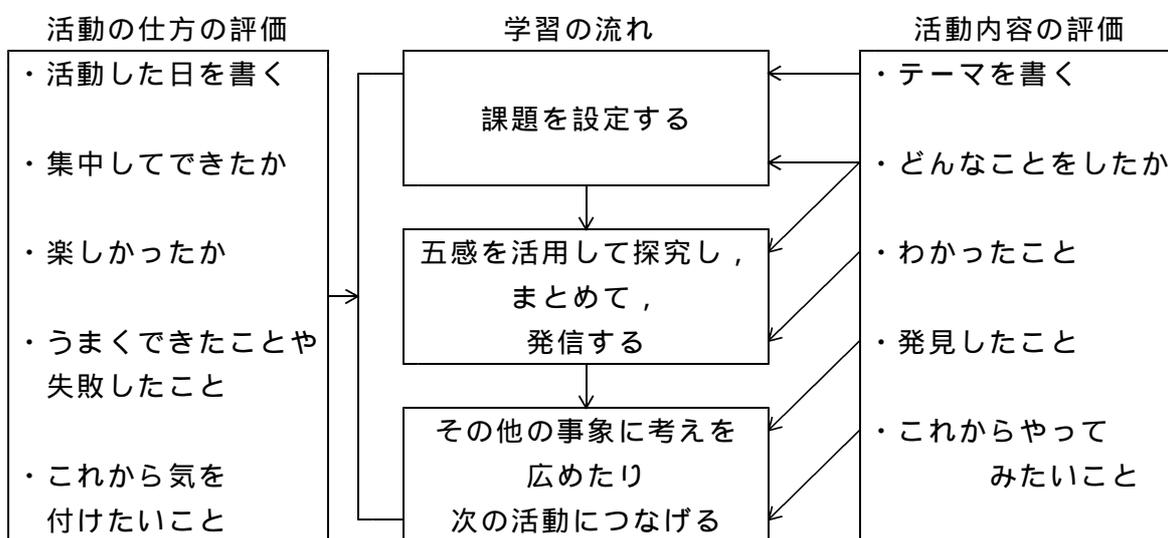
教師の正しい評価の助けとなる要素

- ・教師のねらいと子どもの思いや願いを評価カードから見とる。
- ・活動の表面に出ない子どもの心にある興味・関心・態度を見とる。

学習者の自立のための評価となる要素

- ・課題に対して自分がどの程度できたのか見つめる。
- ・学習の目標・めあて、学び方の見通しなどの達成度・満足度を見つめる。
- ・自分自身の学習に対する基準づくりができるようにする。
- ・評価する力を付けるために評価（メタ認知）する。
- ・一時間の授業の過程を評価（形成的評価）する。

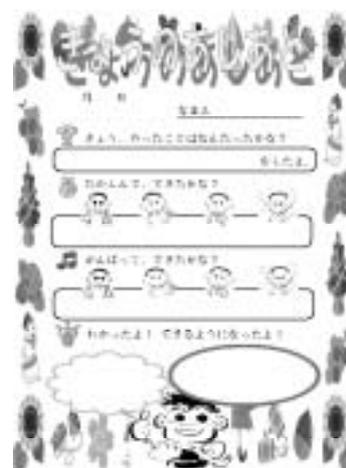
イ 学習過程と自己評価



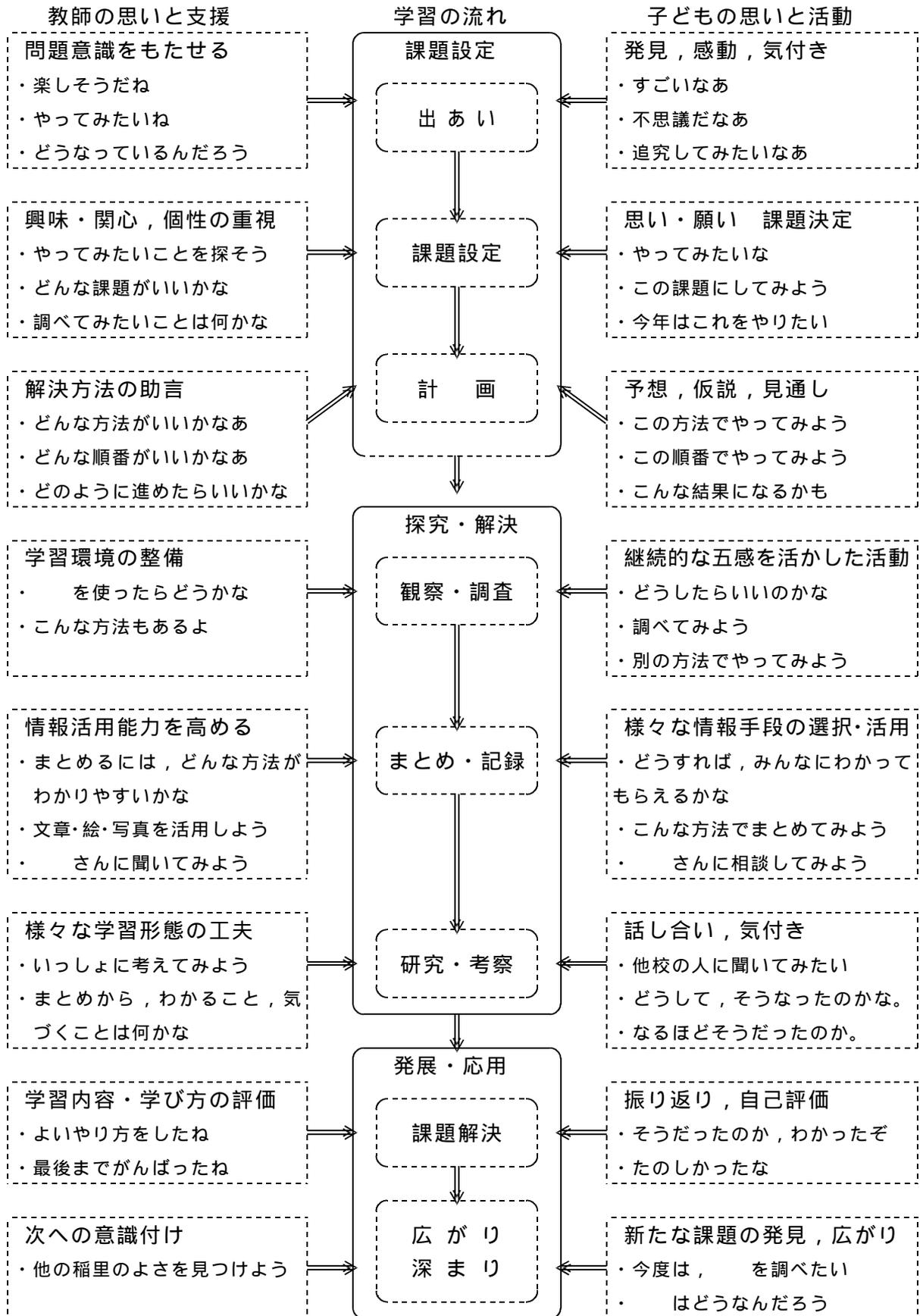
ウ 自己評価カードの実際

条件 ・簡単に記入できるもの（5分程度をめどとする）

- ・評価項目は、5つ程度とする。
低学年では、楽しく振り返れるように絵や図を使ったものにする。
- ・「わかったこと」は、五感でとらえたものを記入する。
- ・簡単な内容は、選択回答とする。
詳しく知りたい内容を記述式回答とする。
- ・他の教科でも活用できる評価カードを作る。
- ・カードに記入する意欲を高めたり、見つめる力を付けるためにファイル化、教師のコメントを付けるなどの工夫をしていく。



学習指導過程と子ども・教師の思いや願い



生活科・「いなさとタイム」における指導過程上の支援の系統

課題を設定する

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
出 あ い	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のまわりを散策させる ・いろいろなものに触れ，遊ばせる ・児童のつぶやきを記録，集積して興味・関心を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年の自分たちや上級生の学習内容を想起させる ・共通体験から，個々の思いや願い，疑問を膨らませる 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年の自分の研究を想起させる ・テーマにかかわる共通体験から課題の方向性を示す
課 題 設 定	<ul style="list-style-type: none"> ・全員でできそうなものを選びに選ぶ ・児童の願いをもとにいくつか課題を示し選択させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような活動ができそうかいっしょに考える ・興味・関心や思いから課題をいっしょに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定時間の活動が可能な内容なのか検討させる ・自分なりの課題を決定させる
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に合っためあてを教師といっしょに考えさせる ・どのような活動がしてみたいか考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対してめあてを自分なりに考えさせる ・教師や友だちと見通しをもち，計画を立てさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対してめあてや見通しをもたせる ・個人またはグループでテーマを決め計画を構想させる

探究・解決する

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
観 察 ・ 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使って対象を見つめさせる ・対象を何度も見つめるための工夫をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使って，事実を正しく見つめさせる ・決めた観点をもとに継続的に見つめさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な角度から事実を正しく見つめさせる ・課題に沿った観点をもとに継続的に調べさせる
記 録 ・ ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を思い出させ自由に書かせる ・子どもの絵などの作品を利用していっしょにまとめる ・情報機器を活用して，まとめたものを教師といっしょに外部に発信させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った方法で情報を収集し，まとめさせる ・様々なまとめ方があることを教える ・情報機器を活用して，まとめたものを外部に発信させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を選び，収集し，整理したり分類させる ・情報手段の特性を活かしてまとめさせる ・情報機器を活用して，自分の考えや思いを外部に発信させる
研 究 ・ 考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・交流相手の考えを理解させる ・活動でわかったこと，気付いたことを発表させる ・外部と交流学習するよさに気付かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流相手の考えを取り入れて考えさせる ・集めた情報を見つめ直させ自分の考えをもたせる ・様々な方法で集めた情報を発表し話し合う機会をつくる ・様々な情報を教師といっし 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流相手の考えを踏まえて自分なりの結論を出させる ・収集した情報を活用する方法を考えさせる ・情報交換により，自分の考えを多面的に比較考察させる ・様々な情報から新たな事実

		よに比較し，いろいろな考え方があることに気付かせる	や異なる考え方に気付かせる
--	--	---------------------------	---------------

発展・応用へ

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な観点を示しながら，自己評価させる がんばったことや気付いたことを教師が評価する 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を全体で振り返った後，観点に沿って自己評価させる 一人一人の活動ですぐれていた点を教師が全体の前で評価する 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の活動を振り返り，納得のいく追究活動ができたか自己評価させる 活動ですぐれていた点を具体的に評価する
広が	<ul style="list-style-type: none"> 活動でたのしかったことを他教科での学びにつなげさせる 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動と似たような課題に挑戦するように仕向ける 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ課題解決の方法を活用して別な課題に挑戦するように仕向ける
深まり	<ul style="list-style-type: none"> 次にしてみたいことを見つけさせ，自分でやらせてみる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した対象でもっと調べてみたいことを話し合い研究させる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決で調べきれなかった観点を洗い出し，再度研究させる

出あい（いろいろなものに触れ，遊ばせる）



観察・調査（昔の道具を分解して調べる）



記録・まとめ（調べたことをワークシートにまとめる）



研究・考察（収集した情報をもとに話し合う）



各学年の実践の記録

1 低学年の実践の記録

(1) 実践の概要

はじめに

低学年では、生活科という教科の中で、総合的な学習の時間「いなさとタイム」の要素を取り入れた学習活動を展開している。今年度は「いなさとタイム」全体として、「ふりかえろう100年のあゆみ 見なおそう稲里のよさ 伝え合おうそれぞれの思い」という目標を設けている。これに合わせ、低学年らしい内容・方法で、学校や地域のあゆみをふり返り、地域のよさに気付かせる学習活動を計画した。

今年度のテーマ

「むかしの さくもつをつくろう」

テーマ設定の理由

低学年の児童2名は、外で活動することを好み、学校のまわりの動植物や栽培に対する関心も高い。反面、地域で盛んな農業に対する関心や知識は乏しい。昨年度までの総合的な学習の時間としての実践の中では、地域の自然を中心に扱ってきたため、地域の人や産業とのかかわりが薄い。そこで今年度は、稲里でかつて作られていた作物の栽培を通して、地域の人や産業とかわる学習活動をすすめることにした。

地域で開校当時に作られていた農作物はいくつかあるが、現在ではほとんど作られていない。そのため、何を育てるか調べる段階から、家族に昔のことを聞かなければならず、必然的に「人」とのかかわりが生まれる。さらに、種まき、栽培、収穫、調理と進んでいく中でも、地域の「人」に話を聞かなければ活動できない。いろいろな人から話を聞いたり、一緒に活動したりすることを通して、地域の昔のようすに関心を広げていくことができると考えた。

教科は生活科であるが、子どもの気付きを生かして課題をもたせ、五感を使って作物を観察したり、家族や地域のお年寄りに調査したりする。さらに、観察・調査したことをもとに話し合い、課題を解決したり、新たな気付きをもとに疑問の解決に取り組んだりする学習活動を計画した。

伝え合う力の育成に関しては、昨年度のように他校・他地域の子どもや大人と体験的な学習の過程や成果を交流するだけでなく、他教科・領域との関連、家族や地域の人とのかかわりを通して育成することとした。

昔の作物のことにについて情報を得るためには、家族に聞いたり、地域の方に相談したりする必要がある。話す内容を考え、実際に話をしていくことで、人とかわることのよさを感じさせるとともに、人に自分の思いや願いを伝



地域の方に昔の作物を渡す

え，人から伝えられた情報を自分のものとする「伝え合う力」が高まっていくと考えた。

また，他校・他地域の子どもの交流相手としては，同じ町内の小学校低学年と，愛媛県の小学校低・中学年を選んだ。

愛媛県の小学校とは，農園学習の1つとして取り組むサツマイモの栽培を通じた交流である。サツマイモの栽培は本校で初めて取り組むものであるが，相手校では以前から全校の農園活動として取り組んでいる。サツマイモ栽培について「先輩」である相手校の子どもに本校での育ちぐあいを知らせ，相手から教えてもらう。また，サツマイモを1つのきっかけとして，生活科で取り組んでいる飼育や，季節のようすなどについても交流を深めていこうと考えた。相手校は瀬戸内海の小島にある小規模校であるので，稲里の生き物や季節のようすと相手校との違いに気付かせることにより，稲里の自然のよさを感じさせることも目的としている。

もう1つの交流相手である町内の小学校は，本校と同じ小規模校である。こちらも，農園学習を中心として，生活科の取り組みについて交流することにした。同じ町内ということで，強い親近感をもたせ，会いに行ったり来たりできるよさがある。直接顔を合わせながら，自分の話す言葉や表情，仕草など全身を用いて自分の思いを伝え，相手の思いも受信して「伝え合う」力を高めていくことを目的とした。



テーマの目標

見つける力	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の作物の栽培や昔の遊びなど具体的なことを通して，地域の歴史や人とかかわりをもつことができる。…目標(1)(2) ・友だちとの交流を楽しもうとしている。…目標(1)(3)
学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の作物の栽培や昔の遊びなどに対して，全身で感じながら遊んだりすることができる。…目標(2)(3) ・コンピュータ上で文字や簡単な絵，写真を使って表現することができる。…目標(3)
活かす力	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の作物や昔の遊びなどのかかわりから，活動を言葉や絵でまとめることができる。…目標(1)(3) ・他校・他地域の Web などを見て，友だちの作品のおもしろさやよさを見付けることができる。…目標(1)

生活科の目標は，以下の通りである。

- (1)自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などのかかわりに関心を持ち，それらに愛着をもつことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，適切に行動できるようにする。
- (2)自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち，自然を大切に

たり，自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。
(3)身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉，絵，動作，劇化などにより表現できるようにする。

今年度で取り組む「むかしのさくもつをつくろう」の中では，公共物・身近な動物とのかかわり，遊びや生活の工夫は扱わない。それらの内容及び目標の達成については，本テーマに関わらない学習活動として計画している。

子どもの姿

1年生1名、2年生1名の学級である。昨年度は、「いなさとタイム」として，生活科の目標を達成しつつ，総合的な学習の時間として学習してきた。季節ごとに学校周辺の自然を通して季節を感じ，さまざまな昆虫，落ち葉などを活かした問題解決的な学習に取り組んできた。また，鹿児島県の小学校と Mail や BBS で交流してきた。

今年度は生活科ではあるが，問題解決的な学習となるよう，子どもの気付きや，その基盤となる体験的な活動を大切に学習活動を進めている。2年生は，学習活動に大きな差はないこともあって，昨年度と同様に，気付いたことに興味をもって自分から調べる姿が見られる。1年生も，1学期の後半から，活動の中で気付いたことを積極的に教師に話すようになってきた。

いずれの子どもも，代々農業を営む家庭で，祖母または祖父母と同居しており，昔のようすについて聞きやすい環境である。昔の作物づくりに取り組んでいることは，家族もよく知っている。子どもが昔のようすについて聞いてもいろいろなことを話したり，作物の育て方にアドバイスをくれたりすることもある。

コンピュータの活用に関しては，今年度から低学年教室にも1人1台の PC を配置したこともあり，関心も高い。国語の作文や委員会活動に活用したり，休み時間にお絵かきソフトで思い思いの絵を描いて楽しんだりしている。

キーボード入力については，かな打ちで簡単な文章を打つことができる状態である。また，Web 作成ソフトで，指定した場所に文章を打ち込んで Web を作成することもできる。



子どもの作成した Web

他教科・多領域と関連付けた指導

Web，Mail，BBS とも文字を主体とした情報の発信となる。わかりやすい文章を考えたり，相手の伝えたいことをきちんと読み取ることができなければ交流は成立しない。そのため国語との関連を重視している。詳細は単元指導計画に示すが，「書く力」「読む力」に力点を置いた国語の学習を展開するとともに，作文や話し合いにかかわる単元を関連づけて指導している。また，植物を育てたり，お年寄りとの昔の遊びをしたりする学習活動を通して，道徳的心情を高めるような学習活動も位置づけている。

単元指導計画

月	時数	生活科	地域	情報	関連付け
4	2	はるのつうがくる			図：おさんぼうきうき
4	4	ともだちになる		ともだちたくさん つくりたいね	
5		うよ	じぶんたちもなに かつくりたいな	全校	情報
6	6	はなややさいを そだてよう	むかしのさくもつをつくろう		
6					能力
10	10	ぼかぼかのはら へとびだそう	活動	かぞくやしん せきにきこう	
7	4	はなややさいを そだてよう	さくもつのたねや なえをうえよう		身
4	4	いきものをかおう	さくもつのおせわ をしよう	おともだちはどん なひとかな？	
9	9	なかよくなりた いね	農園		付け
2	2	わくわくなつや すみ	はながさいたよ		
8	4	はなややさいを そだてよう	みがなったよ	ともだちのところ はどうかな？	る
9	9	なかよくなりた いね		みんなにみせ てあげたいな	
10	2	はなややさいを そだてよう	みをとってりょう りをしよう	石化	校
4	4	なかよくなりた いね		おしえてくれ たひとや、と もだちにも、 たべてほしい な	
11	15	まちのなぞしり たいね	いなさどにはどん なひとがいるの かな	取	習
12	12	びゅうびゅうか ぜとあそぼうよ うきうきふゆや すみ	いなさどのおじ いちゃん・おばあ ちゃんから、いな さどのこときた いな	等	
11	19	びゅうびゅうか ぜとあそぼうよ	むかしのあそびを やってみよう	10	20
2	2		むかしのあそびも たのしいね	ともだちはどん なりょうりをした の かな	
3	4	たのしかったこ とをつたえたい ね	むかしのたのしい ことをつたえよう		音：けしきのうた 道：しんごうき
3	3		いなさどのすきな ところみつけたよ	おうちのひと やしんせきの ひとにきこう	
					図：しぜんからの おくりもの
				おともだちのと ころにはどん なあそびが あるの かな？	
					図：したことを 思い出す・心をつ たえて 道：わたしの町・ かんしゃをこ めて
				きもちがしっ かりとどいた よ	
105		生活科：15	地域：50	情報：40	

評価計画

ア 評価に対する基本的な考え方

- ・評価規準に基づいた，子ども一人一人の学びのようすを肯定的に評価する
- ・自己評価「今日のあしあと」や相互評価の活用
- ・「評価フォルダ」の活用による指導と評価の一体化を実践する
- ・子どもが収集・処理・創造した情報はできる限りデジタル化し，教師だけでなく，子どもも活用できるように配慮する。
- ・クリアファイルを用意するなど，学習の足跡がわかるような工夫をする。

イ 評価の観点および方法

見つける力：昔の作物や遊びに関心をもち，楽しみながらかかわる

- ・身近な人々や地域に関心をもち，愛着をもつことができるようにする。
（自己評価，観察）
- ・昔の作物や遊びに関心をもち，大切に育てたり工夫して楽しんだりすることができる。
（自己評価，Mail・BBS，観察）
- ・身近な人々や自然や社会に関する活動の楽しさを味わい言葉や絵で表現することができる。
（自己評価・相互評価，作成物，Mail・BBS，観察）

学ぶ力：全身で学習対象を感じ，やってみたいことを見つけてやってみる

- ・身近な人々や自然や社会に関する活動を通して、学校や家庭、地域においてよりよい生活を築こうとする。
（自己評価，Mail・BBS，観察）
- ・コンピュータを使って簡単な文字や絵をかくことができる。
（自己評価，作成物，Mail・BBS，観察）

活かす力：いろいろな人と話をし、交流するよさを感じることができる
楽しかったことを伝え合うことができる

- ・インターネットを使って、離れた学校の友だちと交流するよさを感じることができる。
（自己評価，Mail・BBS，観察）
- ・近くの友だちと，近くにいるよさを活かした交流のよさを感じることができる。
（自己評価，作成物，観察）
- ・他校の Web などを見て、友だちの作品のよさを見付けることができる。
（自己評価，Mail・BBS，観察）

(2) 実践の内容

課題設定

ア 昔の作物づくり

学校のまわりでエゾサンショウウオやカエルを捕まえたり，咲いている花を見つけたりしながら，地域に対する関心を高めさせた。合わせて，昨年度に育てていたものの収穫できなかった桜島大根の痕跡を確かめに行ったり，農作業のようすを学級で話題にしたりしながら，作物の栽培に対する意欲も高めさせた。



子どもたちは，今年も何かの作物を育てたいと考えていた。また，今年が開校100周年に当たる年であることは知っていたし，ほかの学年（特に高学年）が地域の昔のことを調べようとしていることも感じ取っていた。

そこで，父母や祖父母が子どもの頃によく食べていた物や，育てていた作物を家族にインタビューさせたうえで，聞いてきたものを出し合い，育てたい作物について話し合った。さらに，食べ方もインタビューさせた。特にイナキビについては，米と一緒に炊いて食べる，団子にして食べるなど，いろいろな食べ方があることに驚いていた。子どもたちは，家族にインタビューして昔の作物の話聞くことを通して，課題を自分のものとし，「大きく育てて食べてみたい」「たくさんとって，懐かしそうに話してくれた家族にプレゼントしたい」

といった願いをもつようになっていた。

調べたいこと

大きくなったら，みんなに食べさせてあげたいです。

「おいしいよ」と言われたいな。

2年T子の「きょうのあしあと」より

課題設定の学習活動が終わったあとも，子どもたちは，昔の作物や，その食べ方についてさらに話を聞いてきて，生活科の時間や朝の会で発表する姿が見られた。中学年も昔の暮らしを調べる学習の1つとして食べ物も調べていたので教えてもらったり，地域の方から情報を教えていただいたりした。ただ，育つようすについてはほとんど分からなかった。

イ 昔の遊び

地域のお年寄りとかかわりの中で昔の遊びについて話を聞いた上で，初めて昔のおもちゃで遊ぶ体験的な学習活動を，9月の見学旅行に設けた。子どもたちは，初めて見るおもちゃばかりで最初は戸惑っていたが，講師の先生や本校の教職員，上級生などに遊び方を教わると，すぐに，おもちゃとかかわりに熱中していた。ただ，この日で遊び方を習得するには至らず，子どもたちは悔しい思いをしていた。

そこで、学校に戻ってからもかかわりをもてるように、同じおもちゃを購入し、教室に置いておくことにした。子どもたちは、休み時間に遊んだり、見学旅行ではできなかった遊びに挑戦したりしていた。さらに、昔のおもちゃを持ち帰って家族と遊んだり、遊び方を教わったりするようになった。



おもちゃを通して、「人」とのかかわりをもたせることができ、さらに、昔のおもちゃとかかわりたいという子どもの思いを高めることができた。

探求・解決

ア カンロ

子どもたちは、これまでの経験をもとに、すぐにポットから苗を植えかえることができた。その後も、葉が増えつるが伸びていくようすを見たり触ったりしながら確かめていた。しかし、いつ・どうなったら取れるのかはよく分かっていなかった。

そこで、カンロを育てている地域のお年寄りに訊くことにした。子どもたちは、訊きたいことを確認し、わかりやすい質問文を考え、聞いた答えはメモを取りながら、地域の人とかかわりながら詳しく知ることができた。

自分たちの質問に、何でもすぐに答えてくれたお年寄りを、子どもたちは「かんろはかせ」と呼び、尊敬の念をもったようだ。また、作物の話だけでなく、昔の暮らしのようすについても話をしてくださり、昔の遊びへも子どもたちの関心をもたせることができた。

6月末には 15cm ほどの実がなった。「かんろはかせ」の話によるとそろそろ取ってもよいことになるが、もう十分に育ったから取ってもよいと考える子どもと、まだ小さいから取ってはいけないと考える子どもとがいた。子どもたちの話し合いにより、今回は食べてみることとなった。結果としてはまだ早



まだだと考えた子どもの予想だったが、この失敗により、調べたことを的確に相手へ伝えることの難しさと大切さに気付かせることができた。

調べたいこと

今日とったカンロは、ちょっとはやかったかな。

もう一ど、お母さんに食べごろをきいておきたいです。

2年T子の「きょうのあしあと」より

このできごとを通して、子どもたちは、やってみて失敗しても次に活かしていけばよいことに気付き、積極的に作物とかかわり、気付いたことを話すようになった。その後、T子はより強い関心をもってカンロとかかわるようになり、夏休み中に、大きく、おいしいカンロを収穫することができた。

イ モチキビ

モチキビは全く馴染みがなかったが、トウキビそっくりの外観であることから、子どもにとってはかかわりやすい作物でもあった。近くにトウキビやハゼキビが植えてあることを活かし、葉や穂のようすを見比べたり、背比べをして育つ早さを比較したりする学習活動を行った。

7月頃、順調に育ってきていたモチキビの一部が食べられてしまうという事件があった。地面に足跡があったことから動物によって食べられてしまったことは分かった。子どもたちは足跡をじっくり見て、それはタヌキやキツネではなく、シカの足跡であることに気付いた。次に、そのシカが入ってきた理由を明らかにするために、まわりの状況を確認めはじめた。するとY子が、シカよけのために農園の周囲に張ってあったひもの1つがないことを発見し、すぐに、そのひものようすを見に行き、それがちぎられていることに気付いた。Y子にとっては、自分の目や指を使ってじっくり観察して誰も気付かなかったことに気付けたことが、その後の活動へより積極的に取り組む契機となった。

8月末に、学校で植えているトウキビが一足先に実り、低学年で収穫することにした。Y子は家でもトウキビを育てていて、祖母から教わっていることもあり、収穫できそうなものを見分けて、上手にゆでる自信をもっていた。そこで、この日の活動ではY子を「先生」とすることにした。

Y子は、太さや、先端の方の実の色をもとに収穫してよいものを見分け、ゆで上がりを確認するときにも実の色で判断していた。そこで、色鉛筆を用いて「きょうのあしあと」に記録させることにした。色鉛筆で1つ1つ試し塗りしたり重ね塗りしたりして同じ色を探し、記録していた。その後も、活動の中で気付いた色を「きょうのあしあと」に表現するようになった。さらに、モチキビを題材として俳句を作ったりもした。



わかったこと

モチキビをとったよ。むらさきいろに なっていたよ。

イナキビの みが、きみどりと うすきいろだったよ

1年Y子の「きょうのあしあと」より

ウ イナキビ

家族などへのインタビューで数多くの話を聞くことができた作物がイナキビである。家族などからの情報だけでなく、インターネットで育て方を確認することもできた。

ジャガイモと同時期に蒔けばよいということで、ジャガイモを植えた1週間後に畑に蒔いた。この時、



2年生のU男が、初めてするはずの筋蒔きを上手にやっていた。

つぶやき

おばあちゃんが やっていたのを、みて、おぼえてきたんだよ！

2年U男の評価フォルダより

祖母という身近な「人」とのかかわりの中で、筋蒔きという情報を見つけ、実際に活かして自分のものとした活動であった。種を蒔いたあとの間引きの活動でも、間引きをし、枯れてしまって空いているところに植え替えていた。「ふつうに間引きをした」というU男のつぶやきは、U男が祖母のやっていたことを思い出しながら活動したことの表れであろう。

U男は、夏休み中も欠かさず水やり当番を行いながら、イナキビと背比べをしたりして成長のようすを観察した。休み前には自分の腰ほどの背しかなかったイナキビが、8月には自分の背丈を追い越し、さらに担任より大きく育っていったことに、たいへん驚いていた。また、2学期のはじめに見に行ったとき、イナキビと雑草がそっくりに成長していること



ことに気付いた。1学期中の雑草取りのときに 中央右がイナキビの茎、左が雑草の茎 T子が「イナキビのまわりには、イナキビに似た雑草が生えるんだね」と言っていたことを思い出し、触って違いを確かめていた。

わかったこと

イナキビのはっぱは、さらさらです。イナキビの くきには、とうめいのとげがあって、そのとげは、つるつるだったので びっくりしました。イナキビの ほは、つるつるでした。

2年U男の「きょうのあしあと」より

エ サツマイモ

これは、地域で昔から育てていた作物ではなく、昔よく食べたものということで、栽培している地域の方に教わりながら、全校で取り組む農園学習の作物の1つとして育てているものである。低学年としては、生活科の学習の1つとしてだけでなく、交流の素材という側面もある。

交流相手は、愛媛県にある小規模校である。当初 BBS での交流を予定していたが、相手校の事情により、手紙や写真での交流を2学期から始めた。

最初の手紙では、サツマイモに関する疑問を2人で話し合い、Y子が育つようす、U男が食べ方を中心に送ることを決めたあと、相手校の自己紹介の Web を見ながら交流相手のことを知ってから、実際に手紙を書く活動を行った。

1年Y子より交流相手へ

わたしたちも、サツマイモを そだてています。はじめてなので、おしえてください。いつ とれるのですか？ どうなったら さつまいもを ほって いい

のですか？ どうして まわりの くさに（つるが）からまるのですか？ もし
しっていたら、おしえてください。

わたしは、たいいくが すきです。いちりんしゃが すき だからです。

それでは さようなら。

交流相手（3年T子）よりY子へ

サツマイモは、冬ぐらいに ^{ふゆ}とります。くさに からまるのは、いものつる
が のびていってるからです。

わたしのすきなきょうかは、音楽と体育と理科です。

すきな花は、ありますか。あったらおしえてください。わたしのすきな花
は、あさがおと、ひまわりです。たねをとるのがたのしいからです。

Y子より交流相手（T子）へ

サツマイモのことを おしえてくれて ありがとう。ふゆの いつに とれる
んですか？ そっちでは、なんがつごろに とれますか？ はっぱが むらさき
いろに なっているけど、だいじょうぶですか？

わたしの すきな はなは、あさがおです。おなじだね。すきな たべものは
なんですか。あと、すきな ジュースは なんですか。

また おてがみします。

Y子をはじめ、質問だけを書いて満足していた。顔を知らず話したこともない相手に対する
関心は高まっていなかった。しかし、返事が来ると、奪い取るように担任から手紙を受け取り、
夢中になって読んでいた。手紙という「モノ」が、交流相手に対するY子の関心を高めた。



1年生は、交流と国語の作文（「おもしろかったことをかきましょう」）の単元を関連付けて指導した。ふだんの国語の学習では文章を書くことに抵抗のあるY子であったため、題材を見つける観点と作文用紙の使い方については国語で指導することとし、最近のできごとを思い出し、題材についてメモを作り、メモもとに作文を書き、伝えるという作文の一連の学習活動をまず手紙で行うことにした。Y子は、サツマイモを育てている中で気付いたことや生まれた疑問について思い出し、担任が板書したメモをもとに、意欲的に手紙に自分の思いを表し、伝えようとしていた。国語の学習での作文についても、手紙での経験を思い出しながら、最近のできごとについて作文を書くことができた。

2年U男より交流相手（2年T男）へ

こちらでもサツマイモをそだてています。いもの おいしい たべかたを お
しえてください。 ぼくは、ゆでて たべるのしか しりません。もし しってい
たら、おしえてください。

ぼくの すきな虫は、カブトムシです。きれいな虫はテントウムシです。す

きな虫きらいな虫はなんですか？

交流相手（T男）よりU男へ

おいしいサツマイモの たべかたは，やいて たべたり，もちに まぜます。
ぼくは，サツマイモを ゆでて たべるのは，しりませんでした。

すきな虫はクワガタとカブトムシです。きらいな虫は，ミミズです。T男くんはなん年生ですか。

U男より交流相手（T男）へ

サツマイモを やいて たべるのが ぼくは しりませんでした。おもちに まぜるのは，おばあちゃんが していました。けっこう おいしいと っていました。12月に もちつきかいが あるので，ぼくたちも つくってみます。

たべたら かんそうをおくります。まっけてください。

すきな虫は おんなじだったね。ぼくは，2年生です。

T男くんの すきな どうぶつは なんですか？ おしえてください。

じゃ，またね。

好きな勉強や虫の話は，U男から「書いてもいい？」と聞かれ，許可したものである。このような交流とは直接結びつかない内容も交流を活発にすることが，昨年度までの研究で明らかになっている。今回の交流でも，こちらの期待通り，こちらの質問に答えるだけでなく，相手も新たな質問をしてきた。また，このような他愛もないやりとりを本来の学習



とともに行うことで，お互いのことを知るおもしろさを実感させるとともに，相手が人格をもった同年代の子どもであることを再確認させることもできる。

2年生も，国語の作文（「友だち，びっくりするだろうな」）の単元と交流を関連付けて指導した。自分の経験したことを相手に伝える手紙を書く単元である。生き物をじっくりと観察してそのようすを言葉で表す学習学習は日常的に行っているので，「伝える」文章を書く学習に主眼を置くこととした。

U男は，食べ方について相手に質問をした。質問をするだけでなく，自分の知っている食べ方についても書かせた。相手からも，答えとともに，こちらの手紙を読んだ感想も一言添えられていた。U男は，その返事においても，祖母から聞いたことを書き加えていた。これは，手紙で得た情報（食べ方）を，祖母もやっていたのではないかと考え，家庭で祖母に聞いたことの表れである。そのことを，相手に伝わるように過不足なく言葉で表現している。

さらに，交流相手から教えてもらい，祖母に確認した食べ方を，本校の学校行事である「餅つき会」において実践してみたいという思いをもったことは，サツマイモについて伝え合ったことを活用しようとしているU男の情報活用能力の高まりであり，U男の思いが広がった瞬間と言える。

オ 昔の遊び

見学旅行や，その後の日常でのかかわりの中で気付いたことを，1つ1つかかわって確認しながら，Web にして伝える学習活動を行った（詳細は9月9日の授業記録を参照）。また，遊び方がよく分からないものについて知っている人に聞いたり，家族とのかかわりの中で同じおもちゃでもいろいろな遊び方があることに気付き実際に遊んでみる学習活動も行った。子どもたちは，難しかったり，いろいろな遊び方ができたりと，現在のものとの違いとよさに気付きはじめている。

むかしの あそび(おはじき)



今後も，おもちゃと十分にかかわりをもたせながら，家族に聞くなどして遊び方を調べながら，調べたことを同じ町内の小学校と昔の遊びを教えてあげる交流をしたり，地域のお年寄りにさまざまな昔の遊びを教えてもらったりする学習活動を計画している。

(3) 実践の考察

成果

ア 学習対象とかかわる力と意欲の高まり

低学年の学習活動では，昔の作物やおもちゃに対して，日常的なかかわりをもたせることと，教師が必要以上に情報を提供しないことを重視して取り組んできた。作物については，水やりや草取りといった活動をさせる機会を増やしたことにより，自分たちが育てている作物だという自覚を高め，活動への意欲を高めることができた。さらに，世話をしながら，指で感触を確かめたり，色を自分なりの方法で表現したりする学習活動を行ってきた。自分たちの作物だという自覚から，作物について抱いた疑問を自分で考えたり人に聞いたりして解決しようとする姿勢をもたせることができた。おもちゃについても，教室に置いて自由に遊ばせながら，同様の取り組みにより，自分の課題づくりを少しずつ意識できるようになってきた。

また，学級として，地域で捕まえた生き物を長期間飼育し続けたことも，子どもの主体性を高める背景にあると考えている。日常的な観察や世話から気付きが生まれ，担任や友だちに自分から伝えようとするようになった。さらに，これらの飼育は子ども一人一人が責任をもって世話をするようにしていたことで，本を自分から探し求めるなど疑問を自分の力で解決したりしようとする姿勢がみられるようになった。



カタツムリの飼育(「でんでんハウス」)

適切な環境を用意して，子どもたちに日常的に取り組ませ，取り組みに対する

評価と支援をすることにより，子どもが思いや願いををもって主体的に学習対象とかかわることができるようになっていくと考える。

展望

ア 多様な交流の効果

同じ町内の小学校とは，直接会って一緒に学習できることが利点であるが，その機会は数回しかもつことができていない。時間と場所，学習内容を同期させることの難しさがその理由である。手紙をやりとりしたり，自分たちがとった作物を渡したりして交流を重ねてきた。集合学習などで会えるときは，親しく話したり，一緒に遊んだりして，強い親近感をもった交流となっているものの，その効果の検証には不十分な交流である。今後も，相手校と連絡を取り合いながら，学習の経過や結果を伝え合う機会を見付け，効果を確かめていこうと考えている。

離れた地域の学校との交流については，はじまったばかりである。手紙という交流手段が子どもに与える刺激は Mail や BBS より大きいと思われるが，重みがあるぶん，やりとりの回数が少なくなってしまうのが課題である。こちらも，まだ検証するには至らないものであるが，子どもの学習意欲を高め，子どもの思いが広がり・深まっていくことは確認された。今後，活発なやりとりとなるような工夫をしていきたい。

イ 多様な交流と国語と関連付けた指導による表現力の高まり

「伝え合う」学習において，特に国語科と関連付けた指導を計画していたが，交流が不十分であるため，こちらも現段階での検証は難しいと考えている。交流を深めていく過程で，自分の思いが的確に伝わるように言葉を選び，順序よく文章を書いて発信し，相手の文章をよく読み，相手の思いを的確に受け止めることのできる力を少しずつ高めていくことができるようにしていきたい。

道徳については，主に生命尊重，勤労・努力の内容と関連付けた指導を行った。作物の栽培や動物の飼育を通して子どもが気付いた驚きや感動，栽培や飼育とそれによって起こる様々なできごとを通して，生物を思いやる心や，自分の役割を毎日欠かさずに自分から行う態度を高め，実際に行動に活かしている姿が見られた。道徳と関連付けた指導については効果があったと考えている。

2 中学年の実践の記録

(1) 実践の概要

はじめに

中学年では，児童と教師が1対1であることから，子どもどうしのすり合わせや練り合い，高め合いが難しい反面，何でも二人で相談して納得しながら進めていくことができるというよさがある。

今年度は，本校が開校100周年を迎えることを踏まえ，「ふりかえろう100年の歩み 見なおそう稲里のよさ 伝え合おうそれぞれの思い」という「いなさとタイム」全体のテーマを受けて，いろいろな人とのコミュニケーションを通して，調べたりまとめたりする活動を軸に稲里小学校の100才をお祝いする学習を計画することとした。

今年度のテーマ

「稲里小学校100才をお祝いしよう！」

～昔を知って，未来を語ろう～

テーマ設定の理由

3年生は，多くのことに興味・関心をもち，大変活動的である。また，視野が広がり様々なものを客観的に見つめることができるようになる。

一方では，新しく社会科や理科の学習が始まり，「調べる」「まとめる」「伝える」等の学習活動の充実が要求されるようになってくる。

今年度本校は開校100周年を迎えるが，上記のような3年生の特性と3年生として求められる資質・力量の向上を目指して，稲里小学校及び稲里地区の昔の様子を調べ，まとめる活動を軸として学習活動を組み立ててみることにした。

また，前述の通り，日常の学習がほとんど一人で行われることから，少しでも多くの人とのコミュニケーションをとるために，インタビューやアンケート，電話，MailやBBSといった様々な手段を用いていくことにも挑戦していくことが，指導者にとっても児童にとっても必要なことと考える。

本単元では自分の住んでいる地域，学校の「昔のくらしぶり」に目を向け，調べたりまとめたりする活動を中心にして今との違いを探り，今の自分，これからの自分というものに思いを巡らせたい。

テーマの目標

《見つける力》

地域や学校の昔の様子に関心をもち，進んで活動しようとする。

調べる過程を通して，今と昔との様々な違いに気付くことができる。

《学ぶ力》

地域や学校の昔の様子について，五感を使って追究することができる。

《活かす力》

追究過程で見付けたことやわかったことをまとめたり，効果的に伝えたりすることができる。

学習全体を通して自分を見つめ直すことができる。

子どもの姿

3年生1名だけの学級であるため、日常の学習活動では競争相手もなく価値観の共有や磨き合いの相手は、もっぱら担任というのが現状である。しかし、大人と子どもの違いはあっても、何でも「2人で」やっといこうという意識に立ってがんばることができる雰囲気があるため、学習計画を立てる段階からじっくりと時間をかけて納得のいくテーマを設定することができた。



また、本人の中に、伸びようとする気持ちがとても強く、目標がはっきりすると大抵のことには意欲をもってがんばることができる。しかし、刺激が少ないために、思考に広がりや深まりがもてないこともあり、担任の力量不足を感じることもしばしばである。

今回の学習は、稲里小学校の100才をお祝いするために、児童ができる一番の取り組みは何か？ という問いからスタートし、2人でじっくりと話し合った結果、稲里の昔のことをいろいろと調べることが学校への一番のお祝いになることを確認した。

また、昨年度からの取り組みである、鹿児島県三島村立三島小学校の児童との情報交流や互いの学校の歴史を調べる活動を通じた交流・共同学習の推進とあわせながら体験的に課題を解決していくことを大切にしてきた。

理解力があり、状況判断もしっかりしているため、じっくりと時間をかけることで、アンケートやお話からいろいろと想像をふくらませて稲里の昔についてイメージをもつことは十分可能であると考えた。

今回の学習の発端となったアンケートでは、保護者の協力が大きかった。祖父が本校の第1回卒業生であることや、自分が子どもの頃の様子についてくわしく話してくれるなど、一年間の学習のきっかけとなる大事な情報をタイムリーに提供してくれたため、このかわりには、児童の興味をそそり、その後の学習活動を大きく左右している。



コンピュータについては、昨年度から続いている鹿児島県の児童とのBBSを活かした交流や、各教科の学習において、主に調べる段階でインターネットや関連ソフトを使いこなすなど、比較的身近な道具として認識していることが見て取れる。

今回は、ローマ字入力によって文章を打つトレーニングも兼ねて、地域の方々からの聞き取りやアンケート調査の結果を集約したり、わかったことをとまめて交流相手の児童に伝えるためのWebづくりの基礎的なことにチャレンジさせたい。

他教科・他領域と関連づけた指導

中学年の学習の性格上，調べたりまとめたりする活動が多く要求されることや，社会科において扱う内容などが，今回取り組む「稲里の昔を知る」活動と接点が大変多い。

【国語科との関連】

単元名・題材名（指導時期）	いなさとタイムにおける留意点
「声の大きさ・話すはやすさ」（4月）	強弱や・話す速さ等について社会科の工場見学と関連をもたせて「発表」に力点をおきたい。
「昔のことを調べよう」（5～6月）	調査・まとめ 文章表現の流れの中から書くことに重点をおきつつ、「昔の遊び」へのアプローチとしたい。
「調べる楽しさ」（6～7月）	現在いなさとタイムで自分が取り組んでいることと照らし合わせて，テーマに基づいて調べることの楽しさを味わわせたい。
「作ってみよう学級新聞」（9月）	テーマに基づいた取材と調べたことをわかりやすく伝えることよさを味わわせたい。

【社会科との関連】

単元名・題材名（指導時期）	いなさとタイムにおける留意点
「カセットテープ工場の仕事」（4-5月）	実際に見学したり，インタビューする体験と，相手との交渉をする体験などを組み合わせたコミュニケーション能力
「自然を生かした仕事」（6～7月）	学校の昔を調べる活動を通してテーマに迫る。
「穂別町のうつりかわり」（10月）	

【理科との関連】

単元名・題材名（指導時期）	いなさとタイムにおける留意点
季節や生き物の学習（通年）	いなさとの自然，環境についてあらためて見つめ直すことで，郷土のよさを感じさせたい。

【道徳との関連】

単元名・題材名（指導時期）	いなさとタイムにおける留意点
「学校の自慢」（7月）	愛校心について考える。
「土とともに」（10月）	稲里の昔の苦勞にふれる。
「みんなが楽しく」（3月）	稲里小学校のよさについて考える。

単元指導計画（75時間）

月	時数	地 域	情 報	各教科等との関連
4	5	<p>稲里小学校が100才になるんだよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はどんな学校だったのか聞いてみよう。 ・お父さんやお母さんの子どもの頃にはどんな勉強をしていたのか聞いてみよう。 ・遊びやおやつはどんなものだったのかな？ ・昔作っていた作物はどんなものだったのかな？ 		<p>道徳（郷土愛） 開校記念日</p>
5	15	<p>イナキビを育てよう（種まき）</p> <p>地域のおじいさんやおばあさんに話を聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お手紙を書こう。 ・聞き方や話し方のマナーを勉強しよう。 	<p>竹島小のお友達にメールを送ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の学習内容なども含めた近況報告をしよう。 ・稲里の様子，育てる作物 ・学校の歴史を調べたお互いの情報を交流し合う計画を確かめよう。 	<p>国語科 「昔のことを調べよう」</p>
6	15	<p>インタビューを実行しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お招きして話を聞こう ・訪問して話を聞こう <p>（食べ物・勉強・学校・遊び・着る物・履く物等々） 「くらし」がキーワード</p>		
7		<p>イナキビを育てよう（観察）</p>		
8	15	<p>インタビューをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いてきたことをまとめて自分の考えをもとう。 	<p>学習の成果を交流しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったことや考えたことをわかりやすく伝えよう。 ・BBSやメール，手紙や電話などいろいろな方法を使って伝えよう 	<p>社会科 「学校の昔を調べよう」</p>
9		<ul style="list-style-type: none"> ・昔の子どもたちのくらしについてまとめよう。 ・昔の学校の様子についてまとめよう 		
10		<ul style="list-style-type: none"> ・絵や新聞に表そう ・昔の遊びをやってみよう 		
11	10	<p>昔のくらしを再現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装や遊びをまねしてみよう ・昔の食べ物を再現してみよう <p>イナキビを育てよう（収穫）</p>		
12	5	<p>今の稲里と自分，これからの稲里と自分について考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違うところや同じところ ・未来の稲里と自分 		<p>道徳</p>

評価計画

ア 評価に対する基本的な考え方

自己評価の有効活用を図る。

評価のための評価とならぬよう，無理のない形を工夫する。

次の学習に生かす評価に努める。

学びの広がりや価値付けに努める。

ファイルを用意するなど，学習の足跡がわかるような工夫をする。

イ 評価の観点

《見つける力》

地 地域や学校の昔の様子に関心をもち，進んで調査活動やインタビューなどに取り組んでいる。

地 調べる過程を通して，今と昔との様々な違いに気付き，自分なりにまとめることができる。

情 自分の学習について交流相手に積極的に伝えようとしている。

《学ぶ力》

地 様々な体験を通して，地域や学校の昔の様子について調べることができる。

地 自分なりに学んだことを整理することができる。

情 インターネットを活用して相手に伝えることを視野に入れて，学習の概略をわかりやすくまとめることができる。

《活かす力》

地 追究過程で見付けたことやわかったことをわかりやすく効果的にまとめ，つたえることができる。

地 自分自身のものの考え方や，自分のこれからについてあらためて考えることができる。

情 相手の情報から自分の学習について考えることができる。

ウ 評価の視点と具体的な方法

自分のしたいことを決め，取り組むことができる。

- ・ワークシート等の記述内容

自分なりの方法でねばり強く調べることができる。

- ・調査活動の様子や調査のまとめ

調べたり体験したことを自分なりの方法で伝えることができる。

- ・発表の内容
- ・発表物の構成

進んで取り組み，楽しく活動している。

- ・活動の様子を観察

調べたり体験したことを自分の生活と比べたり，学習に生かそうとしている。

- ・わかったことから，自分自身の生活を振り返っているかを見取る
- ・学習のまとめの作文など

(2) 実践の内容

課題設定

前述の通り，児童一人と教師一人の学級のため，始めから2人でじっくりと話し合いをすることが出来た。3年生ということもあり，本校が今年開校100周年を迎えることはしっかりと意識できおり，この4月に赴任した担任にもそのことを自分から説明してくれた。

これは願ってもないことと思い，「稲里小学校の100才の誕生日をお祝いしよう」ということで，こちらから話題を提供したところ，児童もそのことについて大変意欲を見せ，ストレートにテーマ設定が出来た。

次に，何をすることで3年生としての自分が稲里小学校の100才を祝うことが出来るのかという話になったときに2人で話し合ったことは，

学校のことをいろいろと調べてみる。
稲里の昔のことをたくさん勉強する。

の2点であった。こうすることで，稲里小学校がきっと喜んでくれるはず。というのが今回の学習課題設定のスタートとなった。

そこで，手始めに自分の両親に子どもの頃に食べていた物や身につけていた物，遊びなどについてインタビューをしてみたところ，その答えに児童が大変興味をもち，「詳しく知りたい」「もっといろんな人に聞いてみたい」という強い願いをもつようになった。

また，食べ物の答えの中に「イナキビ」が登場し，「イナキビって何だろう？」という単純な疑問から，「むかしのさくもつをつくろう」というテーマで活動をする低学年と一緒にイナキビについて調べたり，実際に栽培する活動を通してイナキビについて知ろうということになった。

このような活動を通し，稲里の昔を知って未来を語ることをねらいとした学習活動の課題が設定された。

探求・解決

ア インタビュー

父母へのインタビューをきっかけに，「質問」と「メモ」まとめ 発表という学習の流れについて，社会科における見学学習等とも関連づけて定着を図った。

疑問に思ったことを質問として相手にぶつけ，その答えから自分の疑問を解決してわかったことをまとめることは，いつも一人で学習を進めることの多い本児童にとっては大変貴重な経験となる。

多くの人とかかわりをもつことで，コミュニケーション能力を身につけさせた



いという担任の願いもあり，このインタビュー体験は多くの場面で積極的に取り入れてきた。

- ・言葉の使い方に気を配ること
- ・相手が答えやすいように質問を工夫すること
- ・正確に聞き取るために一生懸命聞くこと
- ・人とのかかわりから得られるその人その人の生き方にふれること

等々，インタビュー体験が児童に与えるよい影響は多くあるが，基本的には相手意識を強くもって欲しいという願いをもっている。具体的には低学年と一緒にいったお年寄りのところで昔の話を聞かせてもらったり，校内の先生方に質問してみたり，電話で専門家に詳しいことを聞いてみるなどを試みた。



はじめ慎重な態度を見せていた児童も，現在では何かにつけて電話で質問をしたり見学の依頼をしたりするようになってきている。今後は，話題を絞ってもっとつっこんだ話をお年寄りから聞き出すためのインタビュー体験をさせたいと考えている。

イ アンケート

稲里の昔について，両親と地域のお年寄り一人からお話を聞いているいろいろなことがわかったが，児童の中にはもっともっといろいろなことを聞きたいという思いがわいてきた。それは担任も同様だったので，2人で次の手段を考えた。そこで考えついたのが「アンケート」である。時間と手間は少しかかるが，一回出せば多くの方のいろいろな考えや経験を知ることが出来る。

ワープロソフトを利用した文章作りの学習もかねて，また，相手を思いやった言葉遣いの実践の場として，アンケート作りに取り組んだ。

2人で確認したことは次の点である。

聞きたいことは何なのか，いくつかポイントを絞る。

- ・食べ物・遊び・服装・勉強・稲里の未来（「暮らし」をキーワードに）

わかりやすい言葉を使って不快感を与えないようにする。

いろいろと書けるように回答スペースを多くとる。

最後に，「ありがとうございました」と書き，感謝の意を伝える。

また，郵便を利用するため，宛先の氏名や住所を心を込めて書くことや返信用封筒の自分への宛名の書き方，返事が戻ってくるまでのルートなども併せて学習

し、郵便やさんをお願いをした。

その後約2週間の間に、続々と返事が届いた。児童には届いていることは知らせたが、開封はある程度揃ってからにしようと話しておいたため、「いつ開けるの？」と何度も聞き、開封日を大変楽しみにしていた。

地域のお年寄りの皆さん24人に出したうち、戻ってきたのは20通であった。農作業の忙しい時期であったことや、かなりの高齢で体調のすぐれない方もいらっしゃったことから「半分ぐらいも戻ってこればいいね」と話していたため、こんなにも多くのご協力をいただけたことが大変うれしかった。

中には、入院中のため代わりに書いてもってきてくれた方がいたり、「切手代がもったいないから」といって直接学校までもってきてくれた方もいたりして、「物を大切に使う」とか、「相手の気持ちに誠意をもって応える」といった、道徳的な心情にふれる材料も多く提供していただいた。こちらが予想していた以上に収穫があり、大変よい学習の機会となった。

開封日には、たくさんの回答を読みながら児童はいろいろなことを思ったようである。一枚一枚を食い入るように見つめ、しきりにうなずいたり、書いてある内容について教師に質問するなど大変意欲を見せてくれた。

アンケートのまとめは、食べ物や遊びなどそれぞれの項目ごとに書かれていることを整理し、Webに載せて鹿児島県の交流相手にも見てもらえるようにした。大変な作業だったが2人で協力して最後まで意欲的に進めることが出来た。

一つ一つの項目ごとに感想を書き入れたが、その中に次のステップに進むことの出来そうな記述があったため、それを元に新たな学習課題を設定していった。

～児童の作成したお年寄りへのアンケート～

しつもん

昔作っていたさくもつにはどんなさくもつがありましたか？

しつもん

昔食べていた、ごはんやおやつのことを教えてください。

しつもん

昔よくやっていた遊びを教えてください。

しつもん

昔、身につけていた服やはきものはどんなものでしたか？

しつもん

昔の学校の勉強の内容を教えてください。

しつもん

これからの稲里をどんなふうにしてほしいですか？

学校の子供たちに何かあればメッセージをください。

昔作っていた作物

葉巻…13人、しんじょう…9人、大団…11人、小豆…10人、しん…9人、
 そば…8人、あむあむ…4人、茶…11人、きりたんぼ…7人、とうもろこし…4人、
 栗餅…7人、ビー…2人、ライオン…2人、カボチャ…2人、
 その他…次郎、ニンジン、豆餅、なす、トウモロコシ、ほろもろ、くら、エナジ豆。

この感想
 24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の作物についての内容がなかなかいい。

- ★ 中学校での活動
- ★ 協会の活動
- ★ 高校生の活動

- ★ 養育院にもなる
- ★ 小学校のホームページにもなる
- ★ 中学校のホームページにもなる

昔の食べ物

しん…10人、しんじょう…10人、かぼちゃ…9人、きりたんぼ…7人、
 とうもろこし…6人、しん…5人、あむあむ…4人、茶…4人、
 栗餅…4人、ビー…4人、ライオン…2人、カボチャ…2人、
 その他…

この感想
 24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の作物についての内容がなかなかいい。

- ★ 中学校での活動
- ★ 協会の活動
- ★ 高校生の活動

- ★ 養育院にもなる
- ★ 小学校のホームページにもなる
- ★ 中学校のホームページにもなる

むかしよくやっていた遊び

お手玉…10人、竹馬…10人、こま…10人、
 かたはら…10人、めんこ…10人、おぼろ…10人、
 おまじろ…10人、なわとび…10人、目黒…10人、ぶんこ…10人、
 あやとり…10人、くじ…10人、くじ…10人、くじ…10人、
 なし…10人、なわとび…10人、しん…10人、
 その他…

この感想
 24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の遊びについての内容がなかなかいい。

24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の遊びについての内容がなかなかいい。

- ★ 中学校での活動
- ★ 協会の活動
- ★ 高校生の活動

- ★ 養育院にもなる
- ★ 小学校のホームページにもなる
- ★ 中学校のホームページにもなる

むかしみにつけていたふくやはきもの

こま…10人、めんこ…10人、おぼろ…10人、おまじろ…10人、
 なわとび…10人、目黒…10人、ぶんこ…10人、
 あやとり…10人、くじ…10人、くじ…10人、くじ…10人、
 なし…10人、なわとび…10人、しん…10人、
 その他…

この感想
 24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の遊びについての内容がなかなかいい。

24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の遊びについての内容がなかなかいい。

- ★ 中学校での活動
- ★ 協会の活動
- ★ 高校生の活動

- ★ 養育院にもなる
- ★ 小学校のホームページにもなる
- ★ 中学校のホームページにもなる

むかしの学校の勉強

昔の学校では、教科書の勉強が中心だったので、
 算数で「たし算」「ひき算」(減算のこと)、「かけ算」(乗算のこと)、「わり算」(除算のこと)を勉強した。

この感想
 24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の勉強についての内容がなかなかいい。

- ★ 中学校での活動
- ★ 協会の活動
- ★ 高校生の活動

- ★ 養育院にもなる
- ★ 小学校のホームページにもなる
- ★ 中学校のホームページにもなる

昔作っていた作物

葉巻…13人、しんじょう…9人、大団…11人、小豆…10人、しん…9人、
 そば…8人、あむあむ…4人、茶…11人、きりたんぼ…7人、とうもろこし…4人、
 栗餅…7人、ビー…2人、ライオン…2人、カボチャ…2人、
 その他…次郎、ニンジン、豆餅、なす、トウモロコシ、ほろもろ、くら、エナジ豆。

この感想
 24の方にあって、20人の方が4人だけなのでよかったな感想が来た、
 22種類の作物についての内容がなかなかいい。

- ★ 中学校での活動
- ★ 協会の活動
- ★ 高校生の活動

- ★ 養育院にもなる
- ★ 小学校のホームページにもなる
- ★ 中学校のホームページにもなる

ウ むかしのくらしを再現しよう

アンケートの整理が終わった段階で、感想の中に書かれていた「一度やってみよう」「くわしく教えてほしい」といった内容の記述から、次の学習のステップを、

ポイントを絞ってもう一度お話を聞きに行くこと
遊び方を教えてもらって一緒に遊んでみること
むかしの子どもたちの服装をまねしてみること

とし、再度のインタビューと服装や遊びの再現に取り組むこととした。この段階は現在取り組み中であるため、記述はここまでとする。

児童が現在イメージしているのは、「むかしの遊び大会」と「むかしのファッションショー」である。

エ 交流学習

昨年度より続いている、鹿児島県三島村立竹島小学校の友だちとの交流を通して、学習したことや日常の出来事などの情報交流を図っている。それほど多くはないが、BBS と Mail によるやりとりを行った。しかし、相手校の都合でなかなかスムーズに行かないことがあったため、思い切って手紙を出してみたところそれが功を奏した。現在まで何度かの手紙交流を行っている。

手紙による交流には、待っている時間は長いですが、PC にはないよさがあり、児童にとってはよかったようである。写真が送られてきたことから、こちらからも送って学校の様子を知らせたり、夏休みにはぜひ会いたいという思いをお互いにもったり、今年の冬には北海道の雪を送ってあげようという計画を立てたりと、手紙による交流は充実してきた。今後は、PC を利用した交流にももう少し積極的に取り組みたい。

(3) 現段階での実践の考察

春以降、多くの場面で電話を利用してインタビューや見学のアポイントメントをとる経験を積んだため、電話によるコミュニケーションは大変得意としている。やはり実際に体験し、経験値を上げることが大切と考える。

また、地域のお年寄りとの様々な形での交流を通し、稲里の昔へ思いを巡らせることが出来たり、新たな知識が獲得できた。

しかし、それよりも大きかったのは相手の思いやる心の大切さが、体験を通して、アンケートの整理を通して、実際の会話を通して経験として考えられたことである。

学習者が一人であることから、なかなか広がりをもたせることができないが、地域の方々との交流を通して人間としての生き方のようなものに、3年生なりに迫らせていくことが今後の一番大きな課題と考えている。



3 高学年の実践

(1) 実践の概要

はじめに

本校の総合的な学習の時間「いなさとタイム」は学習素材を地域と情報に求め、地域素材を題材とした生きる力の育成を目指した学習活動と情報手段を活用した学習活動から構成されている。

高学年では、子どもたちの思いから課題を設定し、開校100周年をむかえるにあたって、地域の歴史を調べる学習を進めてきた。また、他地域の学校と交流するため、活動の様子や調べてきたことを Web, Mail, BBS などを利用して発信してきた。

テーマ

伝統の稲里小学校

開校100年・・・

テーマ設定の理由

ア 活動の方針

地域素材には、自然、人、産業など様々なものがあるが、これまで子どもたちは豊富な自然に関心をもち、エゾサンショウウオや稲里に生息する野鳥を取り扱ってきた。「稲里のいいところは」という質問に「豊富な自然があり、調べてみようとしたときにすぐに実際のものを観察することができる」という答えがかえってくるなど、子どもたちは地域のよさを豊富な自然と考えていた。

そこで、子どもたちは、今年も「いなさとタイム」では、地域の自然を取り扱おうと考えていた。しかし、本年度は開校100周年を記念する年であり、「100年間の歴史を調べてみたい」という願いももっていた。日常的な話題の中から、100周年という言葉を目にする機会がふえてくるにつれて、「100年前はどんな学校だったのだろう」「子どもの数はどれくらいいたのだろう」などの疑問をもつようになってきた。「新しいことをやりたい」という意見も出てくるようになってきた。

本年度は豊富な地域素材から、子どもたちの思い、100周年をむかえる学校の現状から稲里の歴史を取り扱うこととした。



母校発祥記念碑にて

イ 教師の願い

これまで、子どもたちは、地域素材の中から、稲里の豊富な自然を取り扱って

いくなかで、稲里のよさを感じてきているところであった。しかし、とすれば稲里には「自然しかないんだ」と考えており、ほかによさを見いだすことができないと感じていた。そこで、子どもたちに自然以外にも地域のよさがあることを感じてほしいと考えた。

100年間の歴史を題材として取り上げることで、豊富な自然と関係の深い農業を中心とした産業、稲里という地域を築き上げてきた先人たちを調べることとなる。そこには、地域素材である自然、人、産業が盛り込まれており、それらの関わりから地域を総合的に学ぶことができる。

高学年の子どもたちに、100周年という年に在籍する子どもたちに、100年間という長い期間で調べていく中で、新たな視点で地域を見つめ直してほしいと考えた。

ウ 他を思いやる心を育てる交流学习

他校との交流を重視した本校の情報教育によって、子どもたちはこれまでに多くの学校、人と交流を積み重ね、地域の自然のよさを感じつつある。

子どもたちは、他校、他地域の人たちと同じ題材に取り組み、多様な考えがあることをしたり、一緒に学習することのおもしろさを感じることはできた。しかし、交流を進める中で、他校、他地域のよさを知った上で、稲里のよさを考えることが少なかった。

そこで、今年は100周年をむかえた学校、これからむかえる学校などとの交流を進めたいと考えた。100周年をむかえる学校は、それぞれ100年間の伝統を十分に見つめ直し、地域を見つめ直す活動を進めていくのではないかと考えたからである。お互いの学校のよさを交流し、稲里のよさを再認識すると同時に、他の学校のよさをみとめる、他を思いやる気持ちをはぐくませることを意図して交流を進めたい。



教室に設置されたコンピュータ

テーマの目標

見つける力	・稲里小学校の100年間の歴史に関心をもち、課題を見つけ意欲をもってかかわろうとし、インターネットを活用した交流学习を進めようとしている。
学ぶ力	・稲里小学校の100年間の歴史に対し、様々な方法で的確に表現できるとともに、集めた情報を自分の考えや思いが伝わるように工夫して発信できる。
活かす力	・稲里小学校の100年間の歴史を調べるために必要な情報を選択し、インターネットを活用して段階を考えた表現を工夫し交流できる。

子どもの姿

5年生2名，6年生1名の複式学級である。

少人数であるため，個々の思いや願いに対応することが比較的容易であり，個別に課題を設定して学習を進めることが可能である。本年度も，子どもの思いを大切にするために，個別に課題を設定し活動している。

その反面，多様な考えにふれる機会が少なかったり，十分に話し合われずにすぐに結論が出てしまったりすることある。この課題を解決するために，インターネットを活用している。

学級では，1人1台ずつコンピュータが整備されており，日常的に活用している。他校との交流では，Web, Mail, BBS を活用して，情報を発信したり，意見交流や話し合いをしている。他校児童との交流について，自分たちが知らないことを教えてくれるし自分たちが知っていることを教えてあげられると考えていたり，多くの同学年の子どもと話し合うことができる道具として認識している。

Mail を書いたり BBS に書き込むことにはなれてきているが，文章が長くなりすぎて話の中心がわかりにくかったり，交流の段階を意識した表現になっていないことが多かった。毎日，「今日の一枚」と題して，写真を撮り短い文章でまとめる活動を行ったり，コンピュータに限らず発表会などでも，聞いている人，読んでくれる人を意識するように支援している。



「今日の一枚」から

他教科等との関連

教科	単元	「いなさとタイム」との関連
国語	6 耳を傾けよう 自分の考えをはっきりさせて 伝えたいことをはっきりと 思いを語ろう 5 情報を生かす パンフレットで伝えよう	・伝えたいことを的確に話す。 ・相手の意図をつかみながら聞く。 ・相手に伝わるよう表現を工夫してかく。 ・自分の意見を相手に効果的に伝える工夫を考える。 ・自分の思いをはっきりさせて，話の組み立てを考える。 ・文章全体の組み立てを考えて，自分の考えを効果的に書く。 ・表現の効果を工夫してパンフレットを作る。
社会	5 稲作に励む人々 自然を生かした農業 ふるさと料理をつくろう 情報化社会に生きる	・米作りの様子を調べる。 ・土地の利用や自然を生かす様子を調べる。 ・昔作られていた料理を調べ，作る。 ・自分たちで情報を作り，発信する。

	環境を守る 森林を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境の昔と今を考える。 地域で森林を育てる試みを調べる。
算数	6 ならしてくらべよう およその面積を考えよう 5 比べ方を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 様々なデータに平均を活用する。 地域の様々な面積をおおよその概数で計算する。 割合を表すグラフを効果的に活用する。
理科	6 植物の体の働き 大地の作りと変化 人と環境	<ul style="list-style-type: none"> 植物の体の働きを知り，米作りに生かす。 地域の大地の作りと変化を調べる。 地域の人々が環境とどのように関わってきたか考える。
体育	表現	<ul style="list-style-type: none"> 昔から伝わる舞踊を知り，体験する。
道徳	誰もが社会の一員 自然や環境の大切さ 世界に誇る日本の塔	<ul style="list-style-type: none"> 勤労，社会への奉仕 自然愛 郷土愛

指導計画

月	時数	地域	情報	各教科・領域との関連						
4	10	課題設定	つながる							
		オリエンテーション								
5		伝統の稲里小学校 開校100年・・・								
		個別課題設定	<ul style="list-style-type: none"> web の閲覧を通して他校の歴史を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 国：伝えたいことをはっきりと 国：思いを語るう 道：自然や環境の大切さ 社：環境を守る 						
		<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った個別課題 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>人口の変化が らみる稲里</td> <td>昔の米作りか らみるくらし</td> <td>100 年間の出 来事</td> <td>歴史を刻む 物</td> </tr> </table>			人口の変化が らみる稲里	昔の米作りか らみるくらし	100 年間の出 来事	歴史を刻む 物		
人口の変化が らみる稲里	昔の米作りか らみるくらし	100 年間の出 来事	歴史を刻む 物							
		年間計画								
		<ul style="list-style-type: none"> 年間を見通した活動計画 								
6	50	探究・解決	広がる							
		収集（観察・調査）	<ul style="list-style-type: none"> Mail のやりとりから調べたことを交流する 	<ul style="list-style-type: none"> 国：情報を生かす 社：稲作に励む人々 社：森林を育てる 理：植物の体のはたらき 						
7		<ul style="list-style-type: none"> 歴史を調べるために必要な資料を集める <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>人口のデータ</td> <td>昔の農耕機具</td> <td>稲里の歴史</td> <td>学校の道具</td> </tr> <tr> <td>学校の写真</td> <td>米作り体験</td> <td>日本の歴史</td> <td>歴史を示す物</td> </tr> </table>			人口のデータ	昔の農耕機具	稲里の歴史	学校の道具	学校の写真	米作り体験
人口のデータ	昔の農耕機具	稲里の歴史	学校の道具							
学校の写真	米作り体験	日本の歴史	歴史を示す物							
8		インタビュー								
9		分析（記録・まとめ）	<ul style="list-style-type: none"> BBS を活用して学習の成果を交流する 	<ul style="list-style-type: none"> 国：パンフレットで伝えよう 						
10		<ul style="list-style-type: none"> 集めた資料をもとに，100年の歴史がわかるように整理する 								

11		<table border="1"> <tr> <td>グラフ</td> <td>米作り体験 その他の産業</td> <td>歴史年表</td> <td>道具年代別 一覧表作成</td> </tr> </table>	グラフ	米作り体験 その他の産業	歴史年表	道具年代別 一覧表作成		算：比べ方を考えよう 理：大地の作りと変化 社：情報化社会に生きる 国：耳を傾けよう 道：誰もが社会の一員
グラフ	米作り体験 その他の産業	歴史年表	道具年代別 一覧表作成					
12		考察（研究・考察） ・調べてきた歴史について、お互いに意見交流を行い100年の歴史を考察する。						
		<table border="1"> <tr> <td>人口の変化に伴う産業</td> <td>歴史を築いてきた人</td> </tr> </table>	人口の変化に伴う産業	歴史を築いてきた人				
人口の変化に伴う産業	歴史を築いてきた人							
1	20	発展応用 まとめ ・調べてきた歴史をまとめ、地域のよさを見直す。	深まる	国：情報を生かす 社：情報化社会に生きる 理：人と環境				
2		<table border="1"> <tr> <td>人口の変化が らみる稲里</td> <td>産業の推移</td> <td>100年間の出 来事</td> <td>道具年代別 一覧表作成</td> </tr> </table>	人口の変化が らみる稲里	産業の推移	100年間の出 来事	道具年代別 一覧表作成	・お互いの学 校のよさを認 めながら交流 する	
人口の変化が らみる稲里	産業の推移	100年間の出 来事	道具年代別 一覧表作成					
3		発表 ・1年間の学習を発表するなかで、これからの稲里について考える。		国：思いをかたろう 道：自然や環境の大切さ 道：世界に誇れる日本の塔				
		<table border="1"> <tr> <td colspan="2">私たちの稲里，稲里の未来</td> </tr> </table>	私たちの稲里，稲里の未来					
私たちの稲里，稲里の未来								
	80	50	30					

$$80（学級活動）+10（全校活動）+20（全校情報）=110$$

評価計画

自己評価カード「今日のあしあと」を毎時間記入し，学習活動を振り返る。

指導と評価を一体化できるよう，評価フォルダに蓄積していく。

ファイルを用意し，印刷物を蓄積する。

デジタル化されたデータをいつでも活用できるように，整理し保存する。

【評価基準】

見つける力	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つけ意欲をもって稲里の歴史と関わろうとしている。 インターネットを活用し，意見交流をしようとしている。
学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 稲里の歴史で調べたことを様々な方法での確に表現できる。 集めた情報を自分の考えや思いが伝わるように工夫して発信できる。
活かす力	<ul style="list-style-type: none"> 稲里小学校の100年間の歴史を調べるために必要な情報を収集する。 インターネットを活用して段階を考えた表現を工夫し交流する。

活動場面ごとの評価規準・評価方法

課題設定 10時間 (見) = 見つける力 (学) = 学ぶ力 (活) = 活かす力

小テーマ	活動目標	授業における評価規準(本時の目標)	評価方法
稲里の歴史を見つめよう 調べ方を考えよう	・稲里の歴史に着目し、自分に合ったテーマを立てる。 ・課題を探るために具体的な観察、調査、体験などの解決方法を考え出す。	・稲里の歴史に対して自分にかった課題を見つけようとする。(見) ・他校の Web から自分のテーマに応じて交流相手を見つけようとする。(見) ・テーマに沿った自分なりの計画を考えることができる。(学) ・様々な資料を活用して探究方法を計画することができる。(学) ・課題に対して、自分なりの解決方法を考えながら。学習計画に見通しをもつ。(活) ・年間の計画の中で場面を想定して、情報機器を選択する。(活)	観察 発言 自己評価 ワークシート 観察 ワークシート ワークシート

探究・解決 50時間

観察・調査・体験しよう	・自分の課題を観察・調査・体験しながら調べる。	・課題に沿った収集などの活動をしようとしている。(見) ・課題解決の方法を考え、取り組むことができる。(学) ・アイデアや意見を取り入れながら見通しをもつ。(活)	観察 発言 観察記録 自己評価
調べたことを発信しよう	・Web を作成して、稲里の歴史を紹介する。	・他校の Web から考え、魅力ある Web を考えようとしている。(見) ・文字画像を使って Web, Mail, BBS を作成し、発信することができる。(学)	観察 Web Mail BBS
調べたことをまとめよう	・採集、記録したものを分類・保存する。	・効果的なまとめ方を考えようとしている。(見) ・自分なりの観点をしっかりもって活動をまとめることができる。(学) ・分類して保存することができる。(学)	自己評価 調査記録 発言 ワークシート
発見、疑問を探そう	・研究を進める中で発見したり、新たな疑問をもつ。	・疑問に思ったことや発見したことを解決にむかって考えることができる。(学) ・課題解決以外にも新たな発見やアイデアを取り入れていく。(活)	観察 発言 自己評価
交流しよう	・様々な手段を選択して他地域の人と交流する。	・様々な交流手段を知り、その特性を理解することができる。(学) ・交流手段を内容に応じて適切に選択する。(活) ・インターネットを活用して、やりとりを通して課題を解決する。(活)	観察 Web Mail BBS

発展・応用 20時間

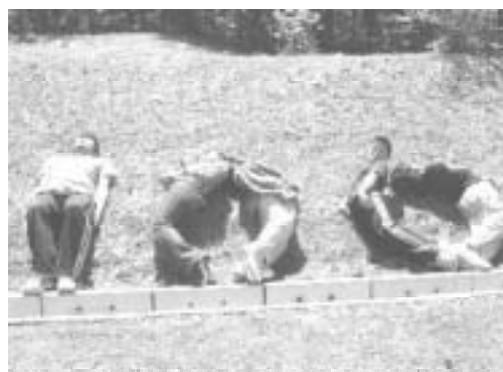
学習を広げよう	・調べた内容を見つめ直し、そこから学習を広げる。	・学習したことから稲里の未来を考えようとする。(見) ・他校との交流を振り返り、そのよさを考え継続しようとする。(見)	自己評価 ワークシート 観察
まとめよう	・調べたことを整理し、まとめる。	・これまでの学習から、地域の産業の移り変わり、先陣の軌跡について考えながらまとめることができる。(学) ・調べたことを整理してまとめて、Web にのせて発信することができる。(学)	自己評価 発表物 Web
発表会をしよう	・一年間で調べたことを発表する。	・適切な言葉で内容を考え発表することができる。(学) ・様々な情報手段の中から発表に適したものを活用する。(活)	観察 自己評価
いなさとを見直そう	・稲里の自然のよさに気づき、理解する。	・1年間の活動から地域のよさを見つけようとしている。(見) ・交流から、稲里と他地域の違いを知り、地域の特色を理解するなかで。(活) ・自然環境と日々の暮らしのつながりを考える。(活)	自己評価 発言

(2) 実践の内容

課題設定場面での実践

ア 個別課題設定

はじめに、1年間を通してどんなことに取り組んでいくかということについてを子どもの思いや願いを大切にしながら話し合った。これまでのように、稲里の豊富な自然を題材とした活動を行いたいと思う気持ちもあったが、一年間を見通す中で開校100周年という年であることを意識するようになってきた。100年前と言われても想像できないことばかりで、自然と「100年前はどんな学校だったんだろう」「100年前はどんな生活をしていただろう」という疑問をもつようになった。そこで、本年度は、稲里の100年間の歴史を題材として取り扱うこととした。



題材を決定してから、テーマ名を話し合った。子どもたちが、100年間の歴史を調べていく活動を想起する中で、以下のような意見がでてきた。

- ・100年間の出来事を調べたい、学校の児童数を調べたいなどそれぞれに思いを持っている。
- ・調べたことを稲里の卒業生を含めた多くの人に見てもらうために Web に公開したい。
- ・歴史を振り返る中で今の稲里との比較やこれからの稲里についても考えるなどの広がりをもちたい。

そこで、テーマを「伝統の稲里小学校 開校100年・・・」とした。「・・・」とすることにより、歴史を調べたり、発信したり、発表したりと様々な活動を含めたり、開校から100年後の自分たちの生活、これからの稲里という広がりも含められると考えた。また、個々の調べたいことを大切に、様々な個別課題に対応できるテーマにすることができた。

個別に設定した課題と活動内容を以下に示す。

	T 男	Y 子	M 子
開校 100 年	間の人口の変化	間で使われた道具調べ	間の学校の物調べ
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・100年間の児童数の変化を調べる。 ・グラフにまとめ、その変化から、100年の歴史を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔はどんな道具が使われていたか調べる。 ・今の道具と比較して、どのように変わってきたか調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校備品の生年月日を調べる。 ・備品の変化を一覧表にまとめる。
Web	<ul style="list-style-type: none"> ・100年間の年表を作成する。 ・主な出来事、児童数、使われた道具をまとめる。 		

イ 交流校探し(つながり)

開校100年の歴史を調べていく中で、同じように「100周年をむかえる学校はないだろうか」「100周年をむかえる学校と交流したい」という思いが出てきた。インターネットで検索すると、ちょうど今年100周年をむかえ、全校児童5人、高学年学級が2人というS村立S小学校を探し出した。さっそく、交流願いのメールをだしたところ、S小学校の児童からMailが届いた。

交流校から稲里小へ

はじめまして、僕は、S小学校6年のMRです。先日稲里小学校からメールをいただいて僕も見ました。交流しましょう、ということなので5年生が占冠小学校のパンフレットを作っておくりたいと思いますので見てください。あと稲里小学校のホームページを見て僕は、すごいな~と思いました。これからもよろしくおねがいします。

下線のように稲里小学校のWebをみてくれたことを知り、もう一度S小学校のWebを見直し、すべてのページを見てから、Mailを返信した。

稲里小から交流校へ

僕は、稲里小学校のT男です。

S小学校のホームページ、見ましたよ！

すごいですね。遠足では、旭山動物園に行っていましたね。

稲里小学校では、学校から穂別ダムまでを歩いていきました。

100周年記念運動会では、地域の方々と一緒になって紅白玉入れや、
、×クイズなど、とても楽しそうに行っていましたね！

稲里小学校でも、紅白玉入れ競争や、地域の方々の100メートル競走などをやりました。

(略)

あと、クイズも出してみたいと思います。

稲里小学校の公務補さんは今年で何年目でしょう？

ヒント：ホームページにのっています。

お返事待ってます！

私は、稲里小学校のY子です。

メールを送ってくれてありがとうございます。

S小学校のホームページ見ましたよ！

学校は、2階建なんですね私の学校は、1階建です。

いいなあーと思いました。

(略)

そして、S小学校は1輪車で生徒全員達人なんですね！

一年生も、達人なんですか？

私の学校も、運動会で1輪車をやっています。

これからもよろしくお願いします。

稲里小学校の、M子です。

S 小学校のホームページみさせていただきました！

S 小学校も、いろいろなおもしろい活動をやっているんですね。

(略)

S 小学校でも一輪車をやっているんですね。稲里小学校でもそちらと同じ運動会でも、一輪車競技の種目があります！色々な技ををやったりしました。

(略)

そこで！1つ質問をしたいと思います！稲里小学校の5、6年生の教室はだいたい縦横8メートルくらいの教室です。

S 小学校の5、6年生の教室はどのくらい広いんですか？教えてください。

これからもよろしくお願いします！

それでは返事待ってます。

下線をみると、交流校の Web をしっかりと閲覧したことが伺える。交流校を探す段階では、隅々まで閲覧しようとはしなかったが、Mail が送られてきて、自分たちの Web を見てもらった喜びから、交流校の Web をしっかり見ようという意欲につながった。また、規模が同じぐらいであり、100周年をむかえた同じような活動がたくさん掲載されていたため、下線(点線)のような共通点を書くなど強い親近感をもったことがわかる。

また、下線(二重線)の部分では、Web を見てからの疑問や聞いてみたいことを書いている。これは、これまでの交流から、質問をすると答えてくれたり、交流が続いていく方法であることを自分なりに身につけた結果であると思われる。

交流の初期段階では、意見の練り合いに発展しにくいような内容がほとんどであるが、お互いの Web を閲覧し合ったり、質問したりしていく中でお互いを知っていくために、大切なやりとりであると考えている。



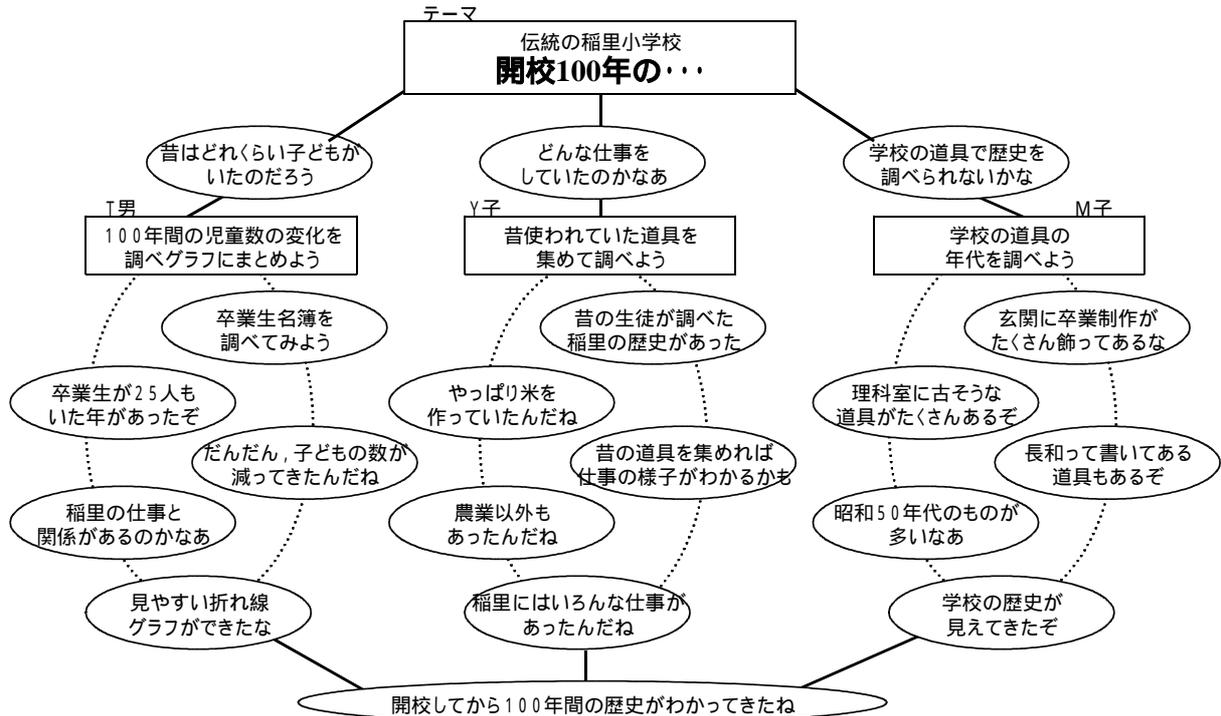
1人1台のパソコンを扱う

探究・解決

ア 個別探究解決

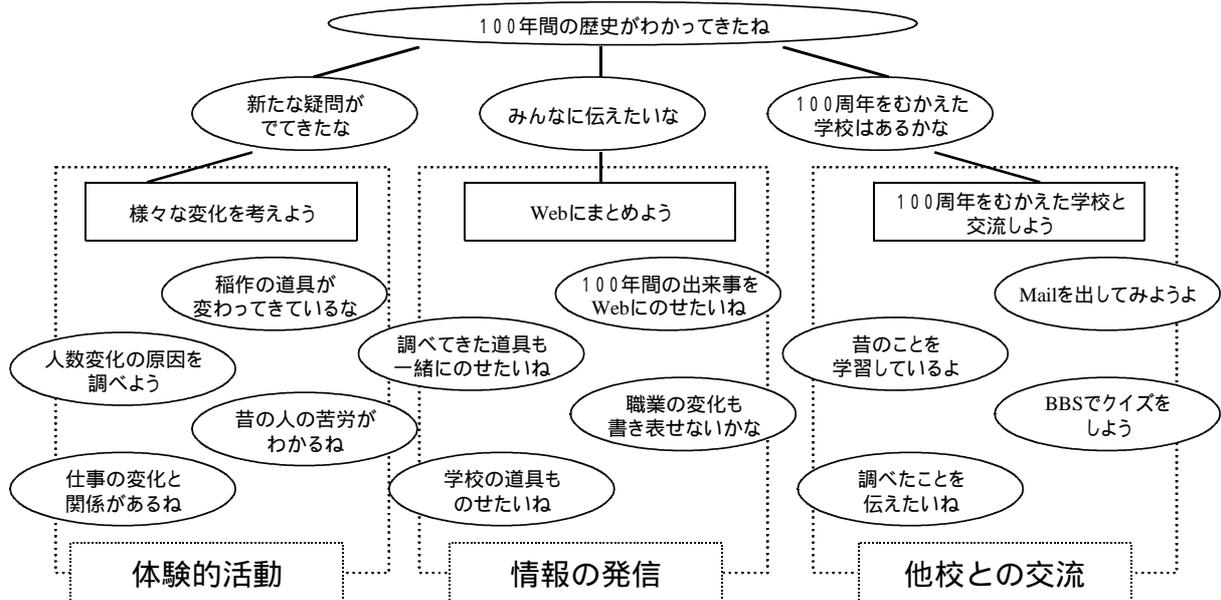
子どもたち自らがたてた計画に沿って、それぞれ個別に活動を行った。1年間の見通しをもっていたので、毎時間自分なりの課題を設定し目的をもって行うことができた。活動を進める中で思い通りに行けなかったり、調べる方法がわからなかったりという場面もあったが、個別に支援しながら進めてきた。

探究解決場面での子どもの思い・思考の移り変わり



個別に課題解決を進めるうちに、お互いの活動が密接に関係していることがわかった。例えば、T男が調べた児童数の変化は、Y子が調べている稲里の産業の変化に関するし、町内の学校の閉校や学校の変化にも関係してくる。そこで、それぞれの課題がある程度解決した段階で、個別課題をもちながらもお互いの活動を支援するというかたちで、共同作業を進めることとなった。

探究解決場面での協同作業



イ 交流学习（広がり）

（ア）他校との交流を行うために

個別に設定した課題について体験的な活動をおこなってきたが、同時に子どもたちは調べてわかったことを交流校に伝えたいという思いをもった。どのようにしたら、自分たちが発信したことを見てくれるか、話し合うことから始めた。他校との交流に限らず、校内の発表でも、聞いている人がわかるようにと常に考えるようにしている。今回は、校内の発表でよく活用するクイズ形式で、また、返信が書き込みやすい、アップローダで調べたことを伝えようと考えた。

しかし、校外の人に学習の成果をクイズ形式で紹介するのは、初めてのことであったので、いきなり校外向けのアップローダに書き込むのではなく、校内向けのアップローダにクイズを書き込み、学級内で問題が読む人に伝わるかどうか話し合うことから始めた。

校内専用アップローダ

昔の道具を調べました Y子 (2004/09/02)



私は、昔の道具を調べました。
突然ですがここで問題です。
この道具の使い方は、田んぼに、線をつける道具です。
その線をつけるときに、誰かが、この道具をひきます。
さあ、この道具の名前は、何でしょう。
また、誰がひくでしょうか。

このクイズに対して、改善したほうがいい点を話し合った。

- ・田んぼに線をつけるではわかりにくいので、道具の名前を書いた方がいい。
- ・誰かでは動物とは思わないだろうから、変えた方がいい。

校外向け 稲里小アップローダ

昔の道具を調べました Y子 (2004/09/15)

私は、昔の道具を調べました。
突然ですがここで問題です。
この道具の名前は、うねきりきと言います。
この道具の使い方は、田んぼに、線をつける道具です。
その線をつけるときに、??が、この道具をひきます。
さあ、この??の名前は、な—んだ

話し合いをふまえて、下線のように文章を修正して、アップローダに書き込んだ。その日の振り返りカードには「いい問題ができた」と書いていたことから、自信をもって発信できたことがわかった。

(イ) アップローダを活用した交流学习

校内向けアップローダで練習し，お互いのクイズに対して相手に伝わるかどうか話し合った後，校外向け「稲里小アップローダ」にクイズを書き込んだ。すると交流校から，答えが返ってきた。

校外向け 稲里小アップローダ

問題！ M子 (2004/09/15)	
	私は昔の物を調べました。 この左の写真は，トウミです。 これは，実とゴミを分けて，米をきれいに する機械です。 そこで問題です！ 米はどこから入れてきれいにするでしょ う?? 上の のところから 左の のあいてるところから 下の斜めになっているところから さあこの ・ ・ のどれでしょう？
クイズに答える ハラとMR (2004/09/21)	
クイズ見ました。 とっても難しいクイズでした。 M子さんの問題に答えます。 答えは， です。僕たちはそば作りの時に使いました。	
答え M子 (2004/09/22)	
ハラとMRさん，返事ありがとうございます。 私が出した問題の，答えをいいたいと思います。 答えは！ の「上の のところから」です。ハラとMRさん見事正解しました！ 私の家では，餅米をきれいにするためにまだ使っています。 <u>トウミでは，餅米をきれいにするために 使うと調べたんですが，そばの何をするときに使ったんですか？教えてください。</u>	

帰ってきた返信には，問題の答えが返ってきた。選択肢に や を使っていたが問題の意味が伝わっていたことがわかった。

また，交流校の児童は，「そば作りのときに使いました」と付け加えていた。子どもたちは米の精米に使う物だと調べていたがそれ以上の広がりはなかった。しかし，この書き込みから，米だけでなくいろいろな「穀物に使われていたのではないか」「そばってどんなものだろう」という疑問をもち，学習に広がりが出てきた。

(3) 実践の成果と課題

成果

ア 個別に課題を設定

子どもたちは、「開校100周年」という年度に対して様々な思いをもち、それぞれに疑問や調べてみたいことがあった。「今は8人しかいないけど昔はもっとたくさん子どもがいたのではないか」「昔の校舎はどんな建物だったのだろう」「稲里はいつから米作りをしているのだろう」という子どもの思いがあったので個別に課題を設定することとした。しかし、これらの課題を解決していくとそれぞれが密接に関係していることに気づくと考えられた。実際に子どもたちは、自らの課題に対して活動を進めながらも、友だちの調べたことが自分の調べていることに関係があることに気づいていった。

個別に課題を設定したために、自然があつて、産業が成り立ち、そこに人が集まるという関係に気づいていく足がかりとなってきた。

イ 交流から広がる活動

100周年をむかえる学校を交流校として検索し、インターネットを活用して、段階を追って Web, Mail, BBS のそれぞれの利点を活かしながら交流を深めていった。はじめは Web によるお互いの活動を閲覧し、Mail で感想を送り合うことから始めた。交流校も同じように100周年をむかえることから、学校行事、総合的な学習の時間で同じような活動がいくつもあり、親近感をもって交流がスムーズに進んだと思われる。

交流が深まった段階で、画像を含めた BBS での交流を行った。これまでのお互いの活動のやりとりではなく、自分たちが学習した成果をクイズ形式で書き込んだ。問題文は学習の成果をわかりやすく伝えるという視点を重視したことで、伝えるために、選択肢を設けたり や などの記号を使ったりと様々な工夫がうまれた。解答には3人での学習では出てこなかった新たな視点が加わり、活動に広がりが出てきた。クイズ形式にしたことにより、意欲も高くなり「他の問題も作りたい」「交流校からも問題を作ってほしい」などの考えがでるなど、よりいっそう交流が深まることを期待することができた。

課題

学習の成果を交流することにより、他校のいいところを知った上で、稲里の地域のよさを見直していこうと考えていた。高学年になった子どもたちは経験的に活動の成果は発信するものとしてとらえており、交流することに対していろんな考えがわかったり、教えたりすることができるなどの利点も知っている。情報を発信するにあたり、意欲的に交流が進められるよう、クイズ形式という方法をとったが、クイズの問題を作る楽しさ、自分の問題が伝わる喜びを感じることができても、なぜ情報を発信するのかという意義を考えさせることができなかった。また、交流することで他地域のよさを知るところまで、発展してきてはいない。交流校との綿密な打ち合わせが必要であると感じている。

成果と課題

1 成果

- ・研究副主題を変更し，表現力の育成に焦点化したことにより，研究内容が整理され，授業構成の視点が明らかとなった。
- ・身近な地域素材を扱うことにより，子どもの意欲が持続し，地域に対する愛着が増すことが改めて確認された。
- ・今年度は「歴史」という視点で地域素材の教材化に取り組んだ結果，「自然」に限らず「人」「産業」のカテゴリーの地域素材を活用することができた。子どもの学習活動を広げさせる効果があった。
- ・地域の歴史を扱うことにより，単元計画を作成する段階から地域の「人」とかかわる中で，地域にある多くの素材を発見することができた。
- ・インターネットを活用した交流の充実に向けて，初歩的な段階として手紙や電話などを活用することも，子どもの学習の広がり，深まりに効果があった。

2 課題

- ・子どもの発達段階に応じて，インターネットに限らず，多様な交流・共同学習の手段，方法，相手について研究実践を深めていく必要がある。
- ・地域素材の活用については，これまで学習対象としてきた地域素材を整理し，資料として残しておくとともに，1つのカテゴリーから地域素材を選択しても他の2つのカテゴリーへ子どもの視点を広げさせることができるよう単元指導計画を工夫していく必要がある。
- ・交流・共同学習の相手については，単元指導計画に沿って相手を選択するのが基本であるが，方法については工夫の余地がある。
- ・他教科・他領域と関連付けた指導の効果は，研究内容として実践を始めて日が浅いため，効果を検証するには資料が不足している。次年度も実践を続けて，次年度末に効果を検証することとしたい。
- ・自己評価の掲示などデジタルポートフォリオ活用の方策について実践を進めてきたが，まだ不十分である。データを蓄積し今年度の「いなさとタイム」のまとめを子どもがする前に，評価項目の妥当性，蓄積したデータの活用方法，教職員間での共有化など，より効果的な作成・活用の方法について研究していくこととする。

参考文献（五十音順）

赤堀侃司(2002)『これからの学習を変える 実践に学ぶ情報教育』ジャストシステム

赤堀侃司(2002)『教育の問題解決への方法論 教育工学への招待』ジャストシステム

赤堀侃司(2003)『解決思考で学校が変わる - 確かな学力の基礎にあるもの - 』ぎょうせい

石原一彦(2001)『現場からのレポート 考える子どもを育てる情報教育 「総合的な学習の時間」と教科の情報化のために』オデッセウス

大阪教育大学附属平野小学校(1995)『学習の個性化を支える指導と評価 - 自己を発揮し自ら変容する子どもをめざして - 』東洋館出版社

小川亮(2000)「情報活用のカリキュラム開発」pp.106-127.赤堀侃司編『情報活用能力をはぐくむ 情報教育の方法と実践 小学校編』ぎょうせい

陰山英男(2002)『本当の学力をつける本 学校にできること 家庭にできること』文藝春秋

角屋重樹監修(2002)『総合的な学習の授業展開と新しい評価』小学館

北俊夫編著(2001)『「総合的な学習」の学力と評価技法の開発』明治図書出版

小島宏編(2004)『小学校の学力向上戦略プラン集』(学校改革選書1) 明治図書出版

佐野真編著, 奈良県斑鳩町立斑鳩東小学校著(2002)『「総合的な学習」の評価規準をどうつくるか』学事出版

三森ゆりか監修(2002)『子どもとマスターする50の考える技術・話す技術』合同出版

高階玲治編(1988)『「総合的な学習」の展開と技術』教職研修2月増刊号,教育開発研究所

中川一史(2004)『実践的情報教育カイゼン提案』ジャストシステム

中野重人,廣嶋憲一郎編著(1999)『自ら学ぶ「総合的な学習の時間」の作り方 -だれにでもできる実践ガイド-』東洋館出版社

貫井正納(2004)『理科授業に役立つポートフォリオ評価 「すごい!私こんなに変わったんだ!」』(理科授業づくりシリーズ)東洋館出版社

日台利夫編著(1999)『「総合的な学習」の授業作りと教師』東洋館出版社

平野朝久編(1999)『「総合的な学習」の多様な学習形態を工夫する』教職研修11月増刊号教育開発研究所

堀田龍也(2004)『メディアとのつきあい方学習』ジャストシステム

本田敏明編著(2003)『情報教育の新パラダイム -理論と実践の目指すもの-』(情報教育シリーズ)丸善

松原伸一(2002)『デジタル社会の情報教育～情報教育を志す人のために～』開隆堂出版

文部科学省「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」(1988)『情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議最終報告』

文部科学省(2002)『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」～』

余田義彦編著(2001)『デジタルポートフォリオ学習と評価』高陵社書店

稲里に住んで・・・いろんなこと

稲里小学校長 西田 忠行

研究紀要に随筆を書こうという研修部長さんの提案で、まず、頭に浮かんだのは、稲里の自然、次に浮かんだのは、パソコンのこと。「一太郎使用で、書式は何とかで何ページ以上で」という親切な提案も、「難題」を突きつけられたようで、頭の中は、パニックに近い。パソコン機能に精通し自在に使用できるのは、稲里小学校勤務にとっては、どうやら絶対必要条件のようである。しかし、パソコンが使えない教員がいてもいいのではないかと、一旦はひねってみても、毎日の仕事に欠くべからざるものになっていることは避けることのできない現実。退職1年半前の私は、頭の回転は機能しない方へとピークになっている状態である。なんとか他の頼もしい先生方へ迷惑のかからないように努力しなければと、反省したり、決意したりである。とにかく、子ども達が到達しているインターネット活用の水準までに到達しなければという、悲壮な、否、楽しみのある「決意」である。皆さんご指導の程、あらためてよろしくお願い致します。

1. 宿命の稲里

最初に稲里にきたのは、昭和61年の8月である。夏休みを利用して家族を連れての恒例の旅行の一つでした。うっそうと茂る草木の間に、できたの真新しい校長住宅：〇校長住宅にお邪魔したのがつい最近のできごとのように思える。プールも更衣室のある新しいものだったようだ。そこで、長女と水遊びをした記憶がある。「いつもプールにくる子がいるんだよ。いつも教えたりしていたよ。」という18年前の〇校長の話と近所のNさんの最近の話が、「うちの息子はいつもプールに行ってお校長に教えてもらっていたんだよ。」と合致して、何か妙な縁を感じたりしている。今、その住宅にお世話になっているのである。

2. 山の幸豊かな稲里

転勤でどこへ行っても野山を散策して自然を楽しむのが大いなる楽しみである。

山菜やきのこや山ぶどうなどを「収穫」するのも楽しい。時には、アイヌネギがグラウンド半分ぐらい広さのところ一面に、まるで畑のように生っているのを見た時の驚き、たくさんの竹の子を残雪のある山頂近くの笹藪の中に見たときの驚き。竹の子採りで「迷子」になるちょっとしたスリルを味わったこともあった。

稲里は、学校のすぐ裏の学校林とその延長で、春は、蕨・独活・踏・ごみなどが豊富に採れ、そして、秋は、ぼりぼり、落葉、ヤナギダケ（自分がしっかり採れるレパー tree）が、魅力である。ぶどうや様々な木の実も豊富である。札幌方面からの山菜採りのお客さんにも「おじさん、何採れるの」と声をかけられるのもこの時期である。山歩きに必需品は、特長ぐつ・タオル・虫除け・ビニール袋・ふたつき籠（きのこの場合）・熊よけのベル・ナイフかカッター・飴玉・背中に背負うリュックなどがよい。台風18号が樹木を倒し、採れそうもないところにあった山ぶどうがふんだんに手に入ったこともあった。

3. 様々な動物の住む稲里

車に乗っていて、鹿を見ること3・4回、まだ衝突のような目に合っていないが、グランドの足跡の様子を見ると、学校林の向こうはエゾ鹿の天国であるよう。今のところ、A商会から購入の鹿笛が効果的かもしれない。鹿笛の音を聞いた鹿は、400m先で逃げ出すと言うことである。また、たくさんのアラグマがメロンや穀物荒らしで農家に迷惑をかけているようである。夏には、親子づれのヒグマが道々を横切ったようである。稲里の人々は、熊が出てあまり騒がず落ち着いているようである。と言うより、熊を見ることはあまり珍しくないこととか。道路で伸び伸びとお休みしていた蛇を紐とまちがえて轢いてしまったのは、気の毒だった。

先生方が、防疫服で武装して命がけで蜂の巣を駆除してくれた。スズメ蜂の多い年でもあった。記念館の壁の中にも巣を作ったのには驚いた。

夜の虫の音の合唱は、素晴らしい。『あーきの夜長を なきとーおす・・・あれ、鈴虫がチンチンロチンチンロチンチロリ・・・』という曲があったが、思わずそんな曲を口ずさみたくなる、夏から秋の夜である。鳴き声につられて玄関を出て行くと、時には、各地からの来客に遭遇する。何とか角コガネムシを探して北広島市からきた帯広の大学の教授氏にお会いした。大事な家畜の薬剤になるとか。「この稲里付近がとていい産地なんですよ。」と、1匹ゲットしてにこにこ顔である。H君が、ばあちゃん伴ってクワガタ取りによく現れた。私も雄のクワガタを子ども達全員にプレゼントしようと張り切ってみたが、それほど甘くはなかった。雄のクワガタ3匹・ヒメギス6匹・雌のクワガタ多数(何故かあまり喜ばれない)の成果であった。

野鳥の多いのも稲里である。朝、決まって、住宅の窓の方向からドリルで突貫工事をやっているような音が響いてくる。キツツキ(頭の部分が赤い赤ゲラか)の挨拶である。白い尾羽のセキレイを駐車場を始め、いたるところで見ると。昨年、野鳥の観察学習を総合的な学習の中に取り入れたのは肯ける所である。雉にもお目にかかりたいものである。山歩きでよく驚かされるのは山鳩である。

4. 豊かに稔る稲里の地

学校農園が作物をしっかりと稔らせたことは、先生方と子ども達と協力をしていただいた地域の皆さんのお陰であることは間違いがない。まだ収穫の終わっていない作物もあるが、全ての作物での豊作は確かでしょう。我が家の菜園もなんとか、スイカやかぼちゃやとうきびなど思った以上のできばえであった。これも良質の土地、寒暖差のある気候、地域の方の優しく整ったご指導のたまものである。

スイカを三叉にしてツルを張らすなど新しい知識を得ることができた。農家の方は、毎朝、野菜の顔や表情を見て、お世話する内容を考えると言うようなことを聞いたが、毎朝、顔を見たくなる気持ちは、分かるような気がする。

まだまだ、稲里の自然や人や歴史や文化や農業など、たくさんのことを学んでみたい気持ちでいっぱいである。全てのことが、教師の仕事の糧になることを信じて。

ひとりじゃないよ「ふたりっ子」

林 曉 宏

「ひとりぼっち」...

切なく、そして寂しい響きである。

小生はこの春より、日常生活のかなりの時間をこのような状態で過ごすようになった。初めての穂別町、初めての教頭としての仕事...。これだけでも十分なのだが、それに加えて今回は、「初めての単身赴任」という大変な事態になっているのである。

「初めて」というのと、「ひとり」というのは何とも心細く、全身を不安が包み込むものであるが、これらがいっぺんにやってくるとなるとその切なさたるや言葉では表しがたいものとなる。

私は家族が大好きで、いつも家族と時を共にしてきた。趣味は家族。だから、一人でフラッと出かけるなどということはまずなかった。どこへ行くにも、まだ幼い娘と手をつなぎ、いい歳こいてスキップなどをしているのである。食事にしても、決して我が家は経済状態が厳しいわけではないが、一番のおかずは家族みんながそろうことであり、高級なお肉や魚は必要ないのだ。

そんな小生が、今は、ひとり孤独にテーブルに向かっている。信じられないことだ。今や食事の相棒はテレビ君。話しかけても答えてくれないテレビ君。気がつけば、「ひとりぼっち」... えーん えーん えーん えーん えーん えーん

職場では、コンピュータに堪能な若者3人が「パチパチ...」と乾いた音を響かせながら黙々と仕事をしている。時折交わす言葉の中には、カタカナ用語が多発し、職員室の空気を鋭く切り裂いている（ように私には見えた）のだ。

「エーそれでは、来週の提案のファイルを開けてください。共有のナミヘイ実践計画の中にあります。」と教務主任の Mr 中村がそう言って今年最初の学年会議が始まった。みんな画面を見ながら会議をしている。いつかどこかで見た未来の風景がそこにはあった。私はというと、そのファイルがどこにあるのかがわからず、隣にいる Mr 牛島に早速訊いた。Mr 牛島は、「ここです...」とボソリ。やっとの思いでファイルを開けてフムフムとうなずきながら話を聞いていた。

話をしながらも Mr 中村は、パチパチとやっている。みんなが話したり、自分が言ったことをもとに、その提案のファイルを修正しているのである。そして、「エーそれでは修正版を見てください。これでいかがでしょうか？」などと言っている。

「これ？ これってどれよ。何見てんの？」私の画面はさっきのまま。そこで Mr 牛島にまた訊いた。

「どうするんですか？」

「こうです」...とボソリ。

そうすると、修正されたものが画面に現れた。これは驚いた。

やっとな会議が終わったかと思うと、今度は提案のファイルを今度は中学年のファイルに貼り付けるとのこと。ここで小生は、また Mr 牛島にその方法を訊いたのだが、5秒後ぐらいにもう一度同じことを訊いてしまった。Mr 牛島はもう一度同じことを教えてくれたが何となく気まずい空気が漂っていたのは間違いない。

それでも何とか教えられたとおりにやってみるとこれがまた便利！ 仕事の時間が相当短縮された感がある。そうか、こんな風になっていたんだ！

コンピュータを使って少しばかり仕事はしてきたが、こんなに進んだシステムになって

いる職場は初めてで、「さすが稲里」と思わずにはいられなかった。こんなすごいことをいとも簡単にやってのける若者たち…。尊敬せずにはいられない…。

この一連の操作にパッパとついて行けなかった私は、ここでも見事に「ひとりぼっち」になってしまった。一つ一つを聞き、何度も何度も聞く。さぞかし、若者たちは息苦しい思いをしたことだろう。(真意は怖くて確かめてはいない… 迷惑かけてゴメンね。)

でも、よくよく思い出してみると、安着祝いの時もPTA総会後の歓迎会の時も、子どもたちや地域の皆さんはそんな私の気持ちを察してか、とても温かく迎えてくれた。何ともありがたいことである。そして、職場の若者3人も表情がとても穏やかで笑顔がすてきであった。そんなことも感じる余裕がなかったのか…。ずいぶんと皆さんにいやな思いをさせてしまったかもしれないな。と一人反省した。(やっぱりひとりぼっち?)

そのころからか、「ぼくは一人じゃない!」と思えるようになってきたのである。わからない人間にみんな快く教えてくれる。寂しい気持ちはあるけれど、話し相手がいつもいる。小生は、よい職場に恵まれた。今までもずっとそうだったが、今回ほどそんな気持ちを強くもったことはなかった。

忙しく毎日を送っているうちに、あっという間に新学期が近づいてきた。私の受け持ちは、Mちゃん。たった一人の3年生である。全校児童8名でスタートした本校にしてみれば、学年1人という事態は当然予想されることではあるが、教室にポツンと机が一つだけ置かれているのを見るとやはり寂しいものである。

小生は誓った。たった一人の3年生。寂しさに負けないで頑張れるように精一杯のことをしよう。どこまでできるか自信がないし、何ができるかわからないがうんと伸ばしてあげよう。と…。

さて、いよいよ新学期。どんな子かな? 緊張していないかな? 仲良くなれるかな? などといろいろ考えていた。何年やっても、この日の緊張感は変わらない。あれこれ気をもんでいざ教室へ!

しかし、そんな心配をよそに二人はすぐに仲良くなり、あれこれおしゃべりをしているうちにあっという間に一日が終わってしまった。小生の不安はいっぺんに吹き飛んでしまったのである。

その時、ふっと頭に浮かんだ言葉が、「ひとりじゃないよ。ふたりっ子。」という言葉。先生も子どももそれぞれ一人だけれど、教室の中はいつも二人。何でも二人で楽しくやれるんだ。いいな、いいな。

やっぱり子どもの力ってすごい。前からそうは思っていたけれど、稲里みたいな小さな学校の子もたちと接していると特に強く感じたのであった。

稲里にきたからには、教頭としての仕事も一生懸命やりたいし、コンピュータの達人にもなりたい。少ないけれど精一杯がんばっている子どもたちの応援団にもなりたい。地域の人たちとも仲良くなって、いろんなことを教えてもらいたい。私の大好きな家族に、稲里の空気をたくさん味わわせたい。貪欲に何でも吸収して少しでも大きな人間に成長したいと思う今日この頃。

だんだん何を書いているかわからなくなってきたのでこの辺でやめさせていただくが、一人になって初めて見えてきたものがある。それは家族のありがたみと、人間、どこへ行っても一人じゃないんだということ。

とりあえず、小生はMちゃんと一緒にあの教室で、「ふたりっ子」学級を大事に大事に温めていきたいと思っているのである。

パソコン狂時代

牛島 夏陽

幼い頃から、「目と歯だけは大事にしてください」と言われて育ってきました。そんなたいしたことではなくて、歯が強くなるように、いりこをおやつ代わりに食べたり、歯磨きを朝晩しっかりやらされたり、三分間歯磨きするように、砂時計が洗面台においてあったりしました。まあ、おかげさまで、歯並びはいいですし、少し自慢できる歯になりました。歯の話は簡単に終わらせておいて、目について実は書きたかったのです。これが、今回のメインだからなのです。目を大切にするために、覚えていることは、1週間のテレビ番組表を作成していたことです。1日1時間、弟と一緒に考えてみました。そして、もう1つゲーム機器をいっさい買ってはくれませんでした。小学生の頃から始まった、ゲームウォッチ、ファミコンなど周りの友達がたくさんもっているのにどうしてなのかわかりませんでした。仕方がないから友達の家に行って、ゲームをしたりもしましたが、なんと言っても毎日家でできる友達にかなうはずがありません。実際の野球なら絶対に負けない友達なのに、ゲームではこてんぱんにやられていました。正直、くやしかったのを覚えています。買ってほしいと何度もせがんだこともありました。でも、まったく買ってくれそうな気配はありませんでした。しかたがないので、ゲームが上手なことをとてつまらないことだと思えるようにして、自分に納得させていました。負けず嫌いだったのでしょうか。それが、中学生高校生になると本当にゲームなんかがとても上手な人を軽蔑してしまうようになりました。つまらない遊びをしてるなあ。まあ、自分ができないからだというのはわかっていたのですが、心理学でよくある狐が高いところにあるブドウを食べたいのにあきらめるようなものでした。ちょっと違いますかね？

そんなこんなで、大学生。寮にはいってもみんなゲームしてました。そして、レポートといったらワープロでした。手で書けよって、心の中で思っていました。自分の中ではテレビゲームとワープロはほとんど同じ部類のものでした。しかし、大学生活が何年かたつと新しい敵が現れたのです。それは、(おかしな表現ですが)ゲームとパソコンを1つにしたようなすごい敵だったのです。これが、パソコンです。

化学研究室に所属していました。ここには、やたらとパソコンが置いてあってが学生が暇をもてあましては、いじってました。教授の方針で、好きなだけ自由に扱うことができるようにと、たくさん整備されていました。そんなもんだから、朝学校に来てパソコン、昼食の後にパソコン、講義が終わってからパソコン、レポートもパソコン。何でもかんでも、いつでもどこでも研究室にいったら、パソコンをさわっている学生をみて、こんな集団いやだなあと感じていました。研究室に行くと、パソコンのよさをえんえんとかたられる始末で、だんだんと近寄らなくなりました。いいんだ、べつにパソコンなんかできなくて……。ますます、パソコン嫌いになりました。でも、そんなことを言われてられなくなったのです。

大学院に進学することにしました。(ここではそういうことにしておきますが・・・)有機化学がおもしろかったからです。4年目になる前に教授に進学希望の話をするそりゃあ喜んで(あまりにも研究室にいないからだと思えるのですが)すぐに、1台のパソコンを割り当ててくれました。???。そこから、つらい日々が始まったのです。進学のために特別に有機化学の講義をしてくださったのですが、そのたびに出される宿題をパソコン

でうってこいというのです。研究室に全く寄りつかず，パソコンが3年目にして，全くできないことを知っていたので，何とかしようという策だったようです。これには驚きました。出される宿題も，難しく結構時間がかかりましたが，打ち込むのにその5倍以上の時間がかかりました。化学の構造式をケムドロというソフトを使っていちいち入力するのです。マウスもろくにさわったことのない人に，これは試練でした。目が痛いのです。乾燥だと思のですが眼球に薄い膜がかかったようになるし，寝るときに目を閉じるとパソコンの画面が浮き上がってくるし，朝起きたら目がものすごく重くてなどつらい日々を過ごしました。

大学院に進学するとほぼ毎日，パソコンと向き合う羽目になりました。レポートはもちろん，やはり続く宿題，英語の論文の翻訳（これはかなり助かりました）そして何を思ったのか諸連絡をメールで行うようになってしまい，パソコンなしでは，生活できないようになってしまいました。それでも，なんとか，M1の夏頃で，ある程度，化学研究室での日常生活に支障がない程度に扱うことができるようにはなっていました。とはいっても，やはり研究室ではパソコンができない部類でしたし，相変わらず軽蔑していました。でも，認めたくないのですが少しずつおもしろくなってきたのです。

研究室にオフィスマック導入を機に研究発表がTPシートからパワーポイントに変わったのです。これは，誰もが初めて使うソフトで，競っているんな操作を試していました。やっと，パソコン集団と同じ土俵にたったのです。はじめて，自分から目的もなく操作を覚えました。さらには，週1回プレゼンゼミのようなものが始まり，回を重ねるごとにアニメーション，音声，背景などいろんな技が飛び交いました。みても勉強になりましたし，パソコンが上達することはいやでしたが，正直おもしろいソフト（あくまでソフトだけです）だと感じていました。不思議なことです。それから，いろんなソフトをいじるようになりました。目的もないのにいじるのが，いろんなところをみてるのが楽しくなってきたのです。あくまで，ソフト的ということですが。

稲里だったらできるよね，あそこにいる人はみんなできるんでしょ，そりゃー稲里だもん，などと言われることがあります，そんなことはないのです。実際パソコンは嫌いだし，ソフトの使い方もあまり知りません。本当に知らないのです。ウイルスのこわさも知らないし，セキュリティーホールがなんなのか，さっぱりわからないのです。パソコン雑誌なんか買わないし，ゼロ書き込みもできません。でも，何とかなってます。それは，そこまで必要がないからだと思うのです。稲里では，パソコンに関して特別な知識を必要とされているわけではなくて，あるものをどう生かすかを考えた結果のひとつであると自分では考えています。初めて赴任したときに，結局，パソコンは道具であって何も生み出さない（確かこのような言い方だったと思います）と言われました。パソコンが嫌いだったからだけではありませんが，（偉そうですが）この学校はすごいな（ほんとに偉そうですが見過ごしてください）と思いました。だから，パソコンなんてある程度でいいのだと思いい，いいわけ半分，安心半分というところですよ。

いまでも，やっぱり嫌いです。嫌いと言い続けたいとも思っています。目を大切にしましょう。ニューバイオを見に，何度も電気屋さんに行ったりしません。買う気なんてありません。当たり前じゃないですか。今ある道具をどう使うかです。バイオマン（パソコン，周辺機器をある特定のメーカーで統一して喜んでる人）になんか絶対なりません。

還ってきてしまった再インストールクラブ（初心者の皆様へ捧ぐ）

中村 治

1 懐かしい日々

稲里小学校に、初任研講師として赴任したのが23歳の春でした。それまで Macintosh 一筋だった私は、稲里小で、柳瀬先生に教わりながら初めて Windows に触りました。次の年の3月、私は教員採用試験に合格し、釧路へ旅立つことになりました。

それから2年半の月日が流れたある日、石川校長先生の「稲里に戻ってこい！」という一言で、稲里へ帰ってくることができました（ありがとうございます！）。

そして今は、情報サークルのサークルマスターなんてやっています。人数が少ないので、メンバーの先生方の要望にお応えできるよさがあります。今年度は、Web の作り方や、コンピュータ・LAN のメンテナンスについても研修できました。せっかくなので、紹介しようと思います。決して締め切りに追われているからじゃありません！

伝わりやすいWebのあり方

< ホームページを作成する際に気をつけること >

- ・作成する目的は何か？
（子どもの学習のようすの発表，交流，学校の紹介・・・etc.）
- ・誰を対象として作成するか？
（自校の子ども，他校の教職員，保護者，他校の子ども・・・etc.）
- ・児童の個人情報の保護
（稲里小の場合は「顔と名前が一致しない」「下の名前を片仮名で」）
- ・著作権はクリアされているか
（キャラクターの使用，他の Web の引用 etc.）

< Web 作成の流れ（中村の場合） >

ネタを集める

最近撮った写真を眺めたり，学習のようすを思い出しながら考えます。

使う写真を決める

コンテンツ（内容）重視とはいえ，写真がない Web はさみしい感じがします。

写真を Web 用に縮小する

稲里小では横 320 × 縦 240 が基本です。なにせ ISDN ですから。

縮小した写真をフォルダに入れる

写真の名前はアルファベットにします。

以前作成した Web をホームページビルダーなどで開く

html ファイルを右クリックすると「ホームページビルダーで開く」と出ます。

写真を入れ替える

写真を右クリックして「属性の変更」を選びます。

文章を打つ

ビルダーならワープロと一緒に。打つだけなら低学年でも使えます。

ソースに入り，タイトルを編集する

<TITLE></TITLE>の間に，ページの題名を入れます。

「名前を付けて保存」で保存して，ブラウザでの見えぐあいをチェックする。

InternetExplorer で見えればいいじゃん！というものではないと思います。

管理者に「できたよ！」と言う

使いやすいLAN のあり方

< 子どもにも教職員にも「使いやすい」LAN とは >

- ・快適であること（適度に「速い」，途切れない，など）
- ・安全であること（セキュリティの保持など）
- ・安心であること（間違って消してもバックアップがあること，など）

< セキュリティ保持のための業務 >

情報収集と周知

Windows のアップデート 必ず全ユーザーにやってもらってください

< どうも調子が悪い！ >

- ・Ctrl・Alt・Del を押して再起動
- ・電源ボタンを長押ししてシャットダウン（もしくはコンセントを抜く） 再起動
- ・常駐ソフト（右下のアイコン）を終了する
- ・データをバックアップして上書きインストール
- ・最後の手段はフォーマットして新規インストール

やっと「再インストール」という言葉が出てきました。これで再インストールクラブとしての責務が果たせました。調子が悪いのは，これで完全に直ります！完璧です。

自分のマシンはそれでいいのですが，問題はウィルスや情報漏洩です。穂別町にもADSL が来て，便利にはなりましたが，ウィルスにやられたり，中のデータを盗み出されたりする危険性も増しています。数時間おきにデスクトップの画像をアップロードに掲載するウィルスもあります。

どうすればマシンを守れるか？ 答えは簡単です。

- ・毎月第2水曜日に WindowsUpdate をする
- ・ウィルス対策ソフトを入れて数日おきにアップデートする
- ・怪しい Web ページは見に行かない（きれいなバラにはトゲがある！）
- ・怪しいデータはダウンロードしない（欲しくても我慢！）

この4つだけです。これで 99.9 %大丈夫です。それでも心配な方は，インターネットは Macintosh で見ましょう。マイナー故に，ウィルスの心配は皆無です！